

2009 年度（平成 21 年度）事業報告

I 概 況

1. 一般事項

SICE は、計測と制御およびシステム・情報、SI、産業応用の分野の発展に持続的に貢献すべく、2008 年度の拡大理事会のテーマ討議で検討した以下の大きな 3 つの柱を基本方針として運営した。

1) SICE Anytime Everywhere（いつでもどこでも SICE）

2) 産業界との積極な関わりに対する基盤強化

3) SICE 内外での異分野融合・横断型

2009 年度の大きな特徴は、各委員会にまたがる重要な課題を会務横断型に括ったミッションとし、委員会を次の 4 つのグループに分けて活動を行った。

- ・部門・支部グループ（部門、将来ビジョン、支部）

- ・知財グループ（会誌編集、論文集、英文論文）

- ・事業グループ（国際、事業、AC）

- ・総務グループ（総務、財務、IT・学会モデル、会員・広報）

また、2008 年度に引き続いて、各会務にまたがる重要な課題に対して、課題の骨太で本質的な解決を目指し、担当会長・副会長制による運営とした。

また一昨年以來の 4 月中の全理事担当会務および委員会の実質的な引き継ぎにより、総会での新体制確定から間を置くことなく各委員会の活動が早期にスタートした。主な活動を以下に列挙する。

（1）新公益法人制度移行準備の状況

新公益法人対応準備委員会と部門・支部が連携し、内閣府、文科省、経産省との相談を含む外部専門家の知見も得て、制度設計・財務設計を進めてきた。5 月下旬には特別役員・評議員懇談会で骨子案を検討いただき、行計画基本案を作成した。2010 年度中の公益社団法人への認定移行を前提とし、2010 年 2 月の第 49 回定時総会での最終承認を得て、2010 年 3 月末に申請を行う計画である。

2009 年 8 月の臨時総会でこの移行計画基本案の承認を得て、制度設計・財務設計の具体化作業とい、認定申請のためのデータの整理と検証を行った。新制度の法令・ガイドラインを遵守しつつ、現行の SICE の運営形態を基本的に継続できる制度・財務設計の見通しは立った。2009 年の 5 月に行われた文科省の実地検査で現行定款遵守についての厳しい指摘への確実な改善の実行を含めて、2010 年 2 月末の第 49 回定時総会での公益社団法人への移行認定申請の承認に向けて、認定申請書類の準備を慎重かつ確実に行う。

（2）2011 年 50 周年記念事業計画の検討

50 周年記念事業(Y 50)準備委員会(館委員長、永島共同委員長)が発足し、2008 年度の下調べチームの構想をベースに計画案の検討を行った。かつてない経済状況と企業業績の悪化のもとで、賛助会員など企業からの協力・協賛について工夫するとともに、あらためて事業計画の優先度付けが検討された。ミッション毎の小委員会が構成され、それぞれの主査のリーディングのもと計画が立案された。

2010 年度は、Y 50 実行委員会と Y 50 組織委員会として本格的な準備と計画の実行を推進する。

（3）論文集の今後のあり方

2008 年からの懸案事項である論文集の発行・購読形態に関する将来構想を立案した。①情報伝達媒体の形態、②電子データへのアクセス権の設定方法 および ③論文発行に対する費用負担 について検討してきた。2011 年度からの和文電子媒体の機関購読制度の開始をはじめとする具体化計画の検討を進めている。

（4）国際標準化事業の初年度の活動推進

国際標準化委員会が正式に発足し、本格的な活動が始まった。国際標準化活動で先行する友好工業会である日本電気計測器工業会(JEMIMA)、製造科学技術センター(MSTC)および日本ロボット工業会(JARA)からの委員も含め活発な活動を展開した。

2009 年の主要な活動項目を、1) ICCAS-SICE2009 の国際標準化に関するメガ OS、2) プレゼンス向上策としての論文、会誌、学会賞などでの標準化テーマ関連の推進、3) JEMIMA 主催計測展 2009TOKYO(11 月)での SICE 国際標準化講演会、および 4) 将来テーマ発掘のための賛助会員および部門へのアンケート・ヒアリングの 4 つに設定し、ほぼ計画通りに推進できた。

特に、ICCAS-SICE2009 の国際標準化に関するメガ OS は最新の状況が包括的に発表され、聴講

者との間で活発な討論が行われたが、先立って行った報道発表が前日の日刊工業新聞に掲載されたこともあり国際標準化のスタートを大きく訴求することとなった。さらに、計測展 2009TOKYO の講演会の大盛況、国際標準化賞の創設(第 1 回は、2010 年 2 月の第 49 回定時総会で授与予定)も特筆すべきことである。

(5) 産業界との連携の基盤強化のための活動

2006 年度から順次進めてきた産業界への貢献と産業界からの参画の増強については、プロセス制御技術者の 100 名育成(2009 年 3 月に SICE プロセス塾完了)や国際標準化の準備作業を通じて一定の成果を得ることができた。これらもベースとして、2009 年度からは、企画委員会での将来に向けた展開の検討と協調した産官学連携委員会を中心とした本格的な検討が進んでいる。賛助会員の意見や助言を反映することが重要なので、7 月より原会長が有力賛助会員 16 社の幹部を訪問し、SICE の現況と今後の産業界との連携・参画の計画と展望を説明し、貴重な意見や助言を得たので、2010 年度は Y 5 0 関連の計画も含め具体的に新たな協同の場と仕組みを確立する。

(6) SICE 外の異業種との連携推進の構想検討

事業グループにおける産業界および官界との連携推進のために、事業推進協議会のもとに産官学連携委員会が設置された。企画委員会での将来に向けた展開の検討と協調して構想を検討した。業種横断型の学会として、応用分野ごとの異業種との連携のモデルの確立のために、2009 年度は、自動車業界(自動車技術会)と鉄鋼業界(日本鉄鋼協会)との共同作業を試みることを決定した。おのおのリーダーとメンバーも固まりつつあり、2010 年度には本格的活動を展開する。

(7) SICE のテクノロジー将来ビジョンの検討を含む部門・支部間連携の構築

部門・支部グループとして TF 将来ビジョンも加えた新しい 2009 年度体制での事業活動を検討した。2008 年度からスタートした部門連携活性化専門委員会を中心として、将来に向けた SICE テクノロジービジョンの検討も含めた部門活動の新しい姿が、企画委員会と協調しながら検討された。成果の 1 つとして、ICCAS-SICE2009 では、支部活動紹介も併せた部門活動紹介の 2 回目のポスター展示が行われた。個々の行事については、大きな違いはないが、新公益法人移行に関わる新しい部門・支部の運営面の検討も含めて新しい枠組みも展望して推進している。

(8) ICCAS-SICE2009, 過去最大規模の Annual Conference となり成功

ICCAS-SICE2009 in Fukuoka は最終受付論文総数 1,121, 参加者数 1,362 名(一般 948, 学生 414)の過去最大級の Annual Conference となった。海外からの論文投稿、参加者がそれぞれ約 40%, 35% で名実とも国際会議にふさわしいものとなったが、新しい試みとしての Tutorial Mini-Course, Interactive Session, Special Poster Session, Luncheon Seminar などとの相乗効果も特徴的であった。SICE-ICCAS2006 in Busan の成功を受けての韓国 ICROS との 2 度目の共催であったが、両学会のそれぞれの国での開催がいずれも成功したことは、SICE Annual Conference がアジアでの中心 Conference となる道を大きく踏んだことになるので、SICE2010 in TAIWAN の成功につながるように成果を生かして行く。

(9) SICE プロセス塾 100 名育成完遂と将来への拡大構想

2009 年 3 月に第 3 期プロセス塾の修了式を行い、3 年間で 100 名のプロセス制御専門家の育成を終了した。賛助会員を含む会員からの要望もあり、教育・認定委員会で 2010 年度を含む今後への拡大を含む将来構想を検討している。

(10) 学会モデルシステムの今後の運用

学会モデルシステムは、イベントサポートを中心に一定の運用が進んでいるが、会員管理の事務局を含むユーザ側機能や論文集査読プロセス支援機能などで課題も多い。2009 年度は、担当副会長リーディングのもと IT・学会モデル委員会および総務委員会による WG を構成し、2010 年度の ASP 契約更新を機会に完成すべき機能の優先度と ASP 業者との品質確認のしくみとルール、SICE としての今後の体制強化について立案した。

(11) 会員数の推移

2009 年末の会員数を 2008 年末と比較すると下記の表のようになる。2008 年末の対前年比では正会員の減少は 101 名であったが、今年度は 184 名の減少となった。年平均 3% 減の傾向は継続している。賛助会員は、会長名での継続依頼状をはじめとする慰留を行ったが、2008 年の後半からの未曾有の経済状況悪化もあり、200 台を割り込んだ。SICE の魅力を高める施策が最も重要ではあるが、学生会員の就職後のフォローや定年退職を迎える正会員への優遇制度などこれまで検討してきた対策を含めて、理事会主導による具体的な新会員の勧誘・獲得活動をこれまでに以上に実行することが重要である。

	2009 年(平成 21 年)末現在	2008 年(平成 20 年)末現在	増 減
名誉会員	26 名	24 名	2 名
正 会 員	5,946 名	6,130 名	▲184 名
学生会員	469 名	546 名	▲77 名
賛助会員	188 社 231 口	202 社 257 口	▲14 社▲26 口

2. 委員会

2. 1 倫理委員会

2008 年度からの本委員会の設置により、倫理綱領、行動規範の継続的な点検・改善が可能となっており、会員の不正行為などの不測の事態に対応できる管理体制が確立している。2009 年度は会員の不正行為に関する訴えもなく、管理体制の見直しは行わなかったが、制定と管理体制設置から 3 年目となる 2010 年度には検討を行う必要がある。

2. 2 企画委員会

2009 年度の企画委員会は 3 つの基本方針である、1) “SICE Anytime Everywhere” (いつでもどこでも SICE)、2) 産業界との積極的な関わりに対する基盤強化、3) SICE 内外での異分野融合・横断型、をもとに、

- a) 基本方針と会務とのベクトル合わせと具体的な目標・計画面での SICE の全体企画
- b) 将来へのロードマップの作成
- c) 横断型となる事業グループの対外(産官学、国際など)および SICE 内部構造のポイントを明確にし、SICE 全体で支えられる組織的な実行体制の立上げ

を活動方針として委員会活動を行った。この結果、委員会、部門、支部のつながりを可視化し、どのような枠組みで上記課題を解決していくかの検討がなされ、ビジョン検討と部門(支部)の関係を整理し、産学連携の推進のための SICE での取組みの構造化を検討し、その結果を拡大理事会での討議につなげ、確認と更なる課題検討を実施した。関係者を広く招集した拡大理事会での 3 つのテーマについての活発な議論を経て、具体策、およびその実現に向け以下のように整理した。

(1) 新しい将来ビジョンによる活性化

SICE 内部でビジョン提案が継続的に行われ、そのビジョンを育成、発展、定着化させる仕掛けと、仕組み、またそのビジョンを SICE 内外に発信していく方策という大きく 2 つに分けた仕組みを構築する。継続的なビジョン提案の面では理事会、各委員会、部門、支部と、新たに創設される将来ビジョン委員会とのかかわりがさらに構造化整理された。メッセージの発信の面では、将来ビジョンの提示、地域での発信、成果である「SICE City」の広報、の必要性が提案され、発信の方法として Web 以外の学会し、メーリングリスト、支部・部門の広報などの方法論も議論され次年度以降の展開に備える整理を行った。

(2) 産業界に魅力ある産官学連携強化

昨年度拡大理事会で議論された結果をもっとにした現状認識の共有がなされ、3 つの切り口からの整理を行った。1 つ目は、産業界からの論文の参加の活性化。SICE での産業界からの論文の評価基準を明確にすると同時に、査読に指導的な要素を加えることが提案され継続検討することになった。2 つ目は、産業界に魅力のある分野の創設。技術マップを作成し、保有技術を棚卸するとともに、この技術マップをツールとして他団体との連携にも活用することも提案され、本年度新設の産官学連携委員会を中心に展開することとした。3 つ目は産業界の若手育成への貢献。昨年度成功裏に終了した「プロセス塾」の活動を発展させることや、出版事業を活発化させることが提案され、前者については教育認定委員会で推進することとした。

(3) これからの SICE の横幹型戦略

SICE がこれまでその活動に深くかかわってきた横幹連合での活動のレビューから今後に向けた課題検討を実施。この結果、新たに SICE として着目すべき分野として、「物理系—人間—建築環境—社会のシステム」、「メンタルの計測と制御」、「知的生産性、実世界理解のための計測と制御」などが挙げられ有望な切り口として【実世界の解剖学】、【人間・社会のモデリング・設計ツール】、【実世界とのインタラクション】などのキーワードが提案された。主体的に活動していくためには、テーマを発見し、分野横断連携の障壁を下げ、ビジョンを作る場を提供する必要性が述べられ具体策が実行可能性と合わせて整理を行った。継続検討課題である。

2. 3 学会賞委員会

(1) 論文賞などの選考

論文賞 9 件, 技術賞 3 件, 著述賞 2 件, 新製品開発賞 2 件, 教育貢献賞 1 件それぞれの候補を選考し, 理事会に報告した. この選考にあたっては, 部門制度に対応した計測, 制御, システム情報, システムインテグレーション, 産業応用の 5 分野のカテゴリーで評価した.

(2) SICE Annual Conference Award の受賞者決定と表彰

SICE Annual Conference Award 運用規則に基づき, 選考委員会を組織し(委員長 鳥取大学 小西亮介氏), International Award 6 件および Young Author's Award 5 件の Finalists および International Award 1 件, Young Author's Award 1 件の受賞者を決定, 8 月 21 日の Closing Session で表彰し, 理事会に報告した.

(3) 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い理事会に報告した.

(4) 国際標準化賞の選考

国際標準化賞候補者推薦小委員会より推薦のあった候補者について, その審査過程が適正に行われたことを確認し, 推薦のあった 2 名を理事会に報告した.

2. 4 新公益法人対応準備委員会

2008 年 12 月 1 日施行された新公益法人法に基づいて, SICE として公益社団法人として申請すべく, 準備を進めた. 2009 年は, 新公益法人対応準備委員会としての本格的な活動を行ってきた. 2010 年 3 月に公益認定申請をすべく, 作業を進めてきた. 作業の若干の遅れはあったが, 3 月の申請, 6 月~8 月での認定に向けての最終作業を行ってきた.

- (1) 2009 年より新公益法人対応の検討のために, 田中総務理事を委員長として, 総務委員会メンバーと事務局(事務局長, 同次長, 主任(会計担当))の 7 名の他に, 支部協議会議長, 部門協議会議長, 支部・部門の代表者が加わっての計画案作成となった. 財務設計の具体的推進のために, 任意会計監査を依頼している公認会計士も参加した財務 WG を立上げた.
- (2) 現「基金」の SICE の将来にとって効果のある移行形態のあり方と基本計画案について, 支部・部門運営も含めてを検討を行った. 現在の支部・部門運営をできるだけ継続できるような体制と仕組みの具体化作業に入った.
- (3) 工学系の学協会の関連組織として最も具体的に新公益法人のことを研究している日本工学会, 公益認定など委員会, 公益法人相談から情報を得て, ①制度設計, ②財務設計についての詳細について検討した. 5 月 21 日には理事検討会に続き役員・評議員懇談会を開催し, 公益社団法人への移行計画基本案(2010 年 3 月申請, 夏に認定・登記)についてご意見をいただいた. その後, 8 月 20 日に開催された臨時総会において, 移行計画基本案が承認された.
- (4) 新法人法には, 代議員についての記載がないため, 法律を扱う部署においても若干の解釈の違いが感じられた. 公益認定直後の代議員, 役員についてはどのように選任するかをあらかじめ決めておく必要があり, 定款, 規程も含めて検討を行った.

2. 5 SICE 50 周年記念事業 (Y 5 0) 準備委員会

SICE 50 周年準備委員会は, 2008 年度の「SICE 50 周年下調べチーム」の理事会報告を受け, 2009 年 1 月に舘 暉元会長・永島 晃元会長を協同委員長として発足した. 記念事業としては,

- ・ 50 周年記念式典(2011/09/15 リーガロイヤルホテル, Annual Conf.と共同)
- ・ SICE 2011(Annual Conference)の 50 周年記念大会開催(2011/09/14-17, 於: 早稲田大学)
- ・ 記念誌の作成(2011 年の会誌 8 月号として発行予定)
- ・ 50 周年記念表彰
- ・ オンラインハンドブックなど新 Web コンテンツの作成
- ・ ビジョンコンテスト(SICE 関連の新ビジョンを募集するコンテスト)
- ・ 50 周年関連イベント(市民イベント, 部門イベント, 支部イベントなど)

とし, それぞれについて小委員会を発足し, 詳細の検討を行った. なお, SICE 50 周年記念事業は 50 周年を迎える 2011 年の前後 1 年間の計 3 年間(2010-2012 年)で行うこととした.

また, 管理, 財務, 渉外, 広報関連についても担当者を決定し, 寄付計画, 広報計画などについて議論した. 寄付については 2010 年 1 月に SICE 50 周年記念事業組織委員会を発足させ, 事業期間中(2010-2012 年の 3 年間)で寄付を募集することとした. また, 広報活動としてロゴを作成し, 事業期間中の各種イベントの資料にロゴを掲載することとした. (以下は白黒版, カラー版は青を基調とした配色)



2. 6 SICE 技術史委員会

本委員会は SICE 関連分野の技術史をまとめるために 2008 年に発足した委員会である(委員長は示村悦二郎元会長, 副委員長は江木紀彦元会長)。2009 年度は 3 月の第 6 回委員会から 11 月の第 10 回まで 5 回の委員会を行った。発足当初は SICE 関連の技術史を取りまとめることを主たる目的としていたが, 本年度より, SICE 50 周年記念準備委員会の依頼のもと, 単なる技術史のまとめだけではなく, 技術史を盛り込んだ SICE の 50 年についてもまとめ, 50 周年の記念誌(2011 年の会誌 8 月号として発行予定)をまとめることとした。

2009 年度は 2008 年度にまとめた会誌特集記事の内容リスト(SICE 分野の変遷を如実に表している); SICE の 50 年間に設置された部門および部会の変遷; 学会運営の変遷などをもとに SICE および SICE 関連技術分野の変遷や将来技術分野に対する展望を如何に技術史としてまとめるかについて議論するとともに, 学会の変遷・展望を如何に記念誌としてまとめるかについて議論し, 次のような記念誌の構成の概略を決定した。

第 1 章: SICE の組織運営(設立から組織の拡大, 財政など)

第 2 章: SICE の事業展開(会誌, 論文集, Annual Conf., 部門, 支部など)

第 3 章: 計測制御の科学と技術(学会を取り巻く計測制御技術)

第 4 章: 学会活動を通してみる科学と技術の 50 年と展望(部門ごとの現状と展望)

付属資料

執筆方針, 執筆者依頼方針についての議論は終わり, 2010 年度には記念誌構成の調整と最終執筆者の確認, 執筆依頼を行う予定。

技術史委員会の活動の一環として, IEEE 125 周年記念行事としての IEEE History Conference 2009(2009 年 8 月米国フィラデルフィア)で, SICE と日本の計測, 制御およびシステムインテグレーションの分野の歴史を論文発表した(橋本秀紀氏(東京大学))。準備は, 各分野の産業界の専門家も加えて行ったので, IEEE の場での SICE のプレゼンスを高めることができたので, 技術史委員会の今後の活動にも活用して行く。

2. 7 SICE プロセス塾委員会

2009 年 3 月に第 3 期のプロセス塾を終了した。8 月の総会にて修了生全員を計測制御エンジニア補として認定した。プロセス塾は計画通り 3 年間で 100 名の塾生を育成した。3 年間の活動の成果を会誌 2010 年 2 月号特集号に掲載するため, 原稿を作成した。各界からの要望に応じて, 次年度以降の体制を教育認定委員会にて検討している。

2. 8 会誌編集委員会

SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供, 会員間の意見交流を目的とし, 2008 年度の活動を継承し, 会員・会員外を問わず SICE の活動について広く情報発信するメディアとして活用される会誌を目指した。具体的な実施項目を以下に挙げる。

(1) 会誌「計測と制御」を年 12 回発行した。このため, 年 6 回の編集委員会および特集号企画などのための特別委員会 1 回を開催した。

(2) 今年度の活動指針である会誌の魅力ある記事掲載に向けては, 以下の活動を行った。

1) SICE の横断的な技術分野を他学会会員にも活用してもらうために, 他学会の会誌との共同企画について, 継続的な取組みを行った。2008 年度に引続き, 自動車技術会との共同企画の検討を行っているのに加えて, 日本鉄鋼協会, 石油学会との連携も検討している。

2) 2008 年度に実施した施策を継承して, 教育関係者(大学人など)向けだけではなく, 産業人・学生・定年退職者向けにも有用な情報を提供する記事を検討した。そして, 賛助会員数・会員数の維持に貢献し, 記事の増加, 大学・産業界の両者からの利用を増進するような内容とした。そのため特集記事だけでなく, 企業会員からの製品紹介や研究室紹介などの研究機関からの情報発信記事に継続して取組んだ。

3) 2008 年度に会員への情報提供をより多く掲載でき, 情報発信を円滑に行うために行った記事

の種類および掲載料の整理や、企業広告を出しやすい環境を整えるための施策(賛助会員の製品紹介記事掲載料無料化や採用・就職活動学生向けの広告の新設)をより広く認知させ、積極的な記事の投稿がされるように検討を行った。また、記事内の図表などがより理解しやすいように関連電子データの Web への掲載を定常化し、掲載方法について執筆のしおりに項目を追加した。

4) 産業界からの委員の意見を十分取り入れ、解説記事の読みやすさの向上をはかるために実施した会誌に関するアンケート結果を分析して会誌改善に向けての具体的なアクション項目の検討を行った。

(3) 今年度の活動指針のもう 1 つである費用コントロールについては、頁数の削減、紙質の変更、毎月の経費状況の見える化を行った。

(4) 学会モデルに基づく編集作業の IT 化は、会務を優先して延期している。論文集委員会の IT 化活動をサポートしながら検討を進めた。

(5) 50 周年記念事業についての活動を円滑に行うため、編集委員会内に、ワーキンググループを設置し準備活動を開始している。技術史委員会へも委員長が参加し情報交換を行った。

(6) 編集委員会委員は、従来どおり部門・支部推薦の委員で構成し、部門や支部の活動と連携を図るとともに、産業論文委員会とも連携し産業論文の知名度向上の取組みも継続した。

2. 9 論文集委員会

論文集は、本学会員の優れた学術/技術的成果を発表する場であり、本学会の主要な情報発信源である。論文集委員会は、この論文集を公正にかつ滞りなく発行する役割を担っており、その活動目的は、この定常的な業務を着実に遂行しつつ、論文集の価値を高めることにある。

以上の観点から、平成 21 年度の論文集委員会活動の柱を以下の 3 点においた。

1) 論文集および査読プロセスの電子化

2) 投稿から採否決定までの期間短縮などの論文著者に対するサービスの向上。

3) 部門活動ならびに関係委員会などとの連携を通じた論文集の価値向上。

以下に、これらの成果と評価を記す。

(1) 2006 年までの論文については JST ジャーナルアーカイブを利用し、電子化および公開の作業を完了した。新規論文の電子化については JST J-Stage への論文登載の実務作業を開始した。電子化に伴い、他論文誌との統合や購読料の設定を含めた論文発行形態に関する長期計画を策定した。学会モデルに基づく Web ベースの査読システムの立上げについて開発会社との打合せを行い、最終テストを行う段階にまで到達した。

(2) 論文の質の向上と査読期間の短縮を両立するための査読プロセス改善を行った。著者に対して迅速に査読状況を開示し、担当者が柔軟に対応できるように査読マニュアルの改訂を行った。

(3) 各部門の大会とリンクした特集号、および産業界に投稿を呼びかける特集号を企画した。これらの活動を通して和文論文集への投稿もいくらか活発化してきてはいるが、今後も広い分野の会員・読者をひきつけるための努力が必要であると考えられる。とりわけ産業界からの投稿を増やす方策を引続き、学会をあげて取組んでいかなければならない。

2. 10 産業論文委員会

(1) 本年度は 12 月末日まで 44 件の投稿を得た。うち 15 件を採録・Web 掲載発行した。2002 年創刊からの総採録件数は 101 件となった。

(2) 掲載論文がここ数年年間 20 件弱で推移していることから、本年度は特集号を企画して活性化を図った。「プロセス制御」と「自動車特集」の 2 つの企画を実施し、投稿件数の大幅な増加につながった。次年度も引続き特集号を企画する予定である。

(3) 特集号などにおける招待論文について、従来の投稿規程では明確でなかったことから、投稿規程に招待論文を明文化し、2009 年 6 月 3 日付けで投稿規程の改定を行った。

(4) 査読体制をより強化する目的で AE の補充を行い、手薄い査読分野の強化について検討を行った。

(5) 査読の効率化のための論文管理システムの改定を実施し、迅速な査読が実施できるように一覧表をより見やすいものにした。また、学会モデル新システムへの移行の可能性についての議論を進めた。

2. 11 英文論文集委員会

英文論文集委員会は、創刊 2 年目を迎えた英文論文集の国際的な情報発信源としての役割を確実に達成するため、3 回の委員会と 1 回の拡大委員会を行い、隔月刊で合計 6 号の英文論文集を発行

した。特に第6号は英文論文集として初めての特集号である。

英文論文集への投稿数は、各行事でのピラ配布などにより順調に推移しており、年間で95編の投稿を受けた。これにより財務状況も順調であるが、購読者数に関しては伸び悩んでおり、年間での購読申込数は163件であった。引続き購読の勧誘が必要であるが、その一方で、本来の目的である情報発信に関して紙媒体配布の有効性は低くなっており、電子配布が望まれている。英文論文集委員会では、和文論文集委員会、産業論文集委員会と連携しながら電子ジャーナル化の準備を始めており、今後着実に進めるべき課題である。

英文論文集では、委員会の下に Editor-in-Chief, Editor, Associate Editor よりなる Editorial Board を構成し、投稿論文の審査をエディタ制で行っている。構成員の献身的な尽力により、短い査読期間と適切な採否決定を同時に達成している。

2009年に掲載された一般論文について、投稿から掲載までに要した期間は平均で約5ヶ月であり、採録率は約7割である。なお、英文校正のため一部の委員に大きな負荷が生じており、これを解消するため業者による英文校正を計画している。

2. 1 2 出版委員会

- (1) 計測・制御テクノロジーシリーズの刊行継続について進捗状況を確認し、著者への執筆推進の働きかけを行った。現在計10巻が発行済み。
- (2) 論文誌の電子化について J-Stage の利用なども考慮して移行方法の検討を行った。
- (3) SICE 50周年に向けてどのような記念出版を行うか、50周年記念事業準備委員会の中で検討した。

2. 1 3 国際委員会

「計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指す」という中長期ビジョン(2002年11月開催の拡大理事会)のもと2009年度もSICEのさらなる国際化に向けた活動を展開した。SICE Annual Conference に関する議論は、新設された Annual Conference(AC)委員会にゆだね海外学術団体との連携、国際研究集会の共催、協賛を通して、SICEの存在を積極的にアピールしていく。

- (1) SICE Annual Conference について

- 1) 今年度より、Annual Conference(AC)委員会が設置されたことに伴い、国際委員会との役割分担を協議して明確にした。
- 2) ICCAS-SICE2009においては、参加者増に結び付くための企画事業のために、国際交流振興基金を活用した。

- (2) IFAC の日本開催招致

IFAC World Congress 2017 の日本開催に向けて、国際委員会のもとにある IFAC 委員会が中心となって招致活動を行い、第一次審査を通過させることができた。

- (3) 国際研究集会の主催・共催

国際研究集会の主催、共催、技術主催／共催、協賛事項に関して審議・承認を行った。

- (4) 海外学術団体との連携

平成20年度に定めた7会議について、SICE から代表者(会長、副会長)を派遣して、会議での挨拶などを通じて SICE の国際的地位向上を図った。

- (5) 部門・部会・支部との関係

- 1) ICCAS-SICE2009 開催直前に開かれた、制御部門および Chinese Association of Automation (CAA)主催の"Third Japan-China Joint Workshop on Control - Theory and Applications on Complex Systems"を支援して密接な協力を行った。
- 2) ICCAS-SICE2009 期間中に行われた、制御技術部会メンバーと IEEE CSS President との懇談会を支援した。

2. 1 4 事業推進協議会

- (1) 体制作り

2009年度に発足した当協議会は、初年度にあたり、規約作成、体制作り、各委員会の会務の明確化を主眼として活動した。また、体制が過渡期の委員会において、その会務に支障がないようにバックアップをおこない、活動のための討議や承認などを実施した。

新設も含め各委員会の名称は次のとおりである。会務は各委員会からの報告を参照のこと。
産官学連携委員会(新設)、国際標準化委員会(新設)、学会連合推進委員会、教育・認定委員会、Annual

Conference(AC)委員会(従来の国際委員会などの役割を移行)

(2) 共催・協賛依頼の承認

各部門や国際会議に関連する共催・協賛依頼の承認は、それぞれ部門協議会、国際委員会にておこなっているが、SICE 本体への依頼およびいずれにも該当しない依頼について、公共性や内規との整合性を確認して承認手続きを行った。

(3) JIS 原案作成(見直し)委員会：平成 21 年度

経済産業省の産業基盤標準化推進室を通して、利用者から、SICE が原案作成団体として作成した JIS に関して、既に廃止されている規格が引用されており、整合性がとれていないとの指摘があったことの連絡を受けた。そこで、同様の不整合の問題を pH、粘度、密度(比重)に関する 6 件の JIS において、確認するよう対応を求められた。それを受け、(財)日本規格協会の JIS 原案作成公募制度に応募して、平成 21 年度 8 月開始の事業として pH と粘度に関する 4 規格の改正原案作成事業が採択された。なお、密度(比重)に関する案件については、来年度事業として改正原案作成の申請を行う予定である。

＜委員会の設置＞

- ・ JIS 原案作成委員会(本委員会)
- ・ JIS 原案作成作業グループ(WG)(WG1：pH 関連，WG2：粘度関連)

2. 1 5 産官学連携推進委員会

3 月 24 日の原会長による設置趣旨および昨年度活動内容説明、6 月 26 日、7 月 30 日の企画会議における討議を元に、目的および任務を明確化すると共にメンバーを選出し、11 月 15 日開催の第 4 回理事会に上程し承認され委員会を発足させた。事前準備も含めた今年度委員会開催は 3 回(9/7, 11/21, 12/22)であり、その中で自動車技術会、日本鉄鋼協会との連携 WG を発足させ、取組みを具体化した。

(1) 自動車技術会連携 WG

制御部門を母体とした連携を構築し、IFAC のオートモーティブシンポジウムの 2013 年開催に向けて計画的に活動することとした。自動車技術会の永井副会長(東京農工大学)にジェネラルオーガナイザーを打診し、各自動車メーカーとの折衝を継続。IFAC の日本事務局(日本学術会議)や推進母体と連携する計画を検討している。

(2) 日本鉄鋼協会連携 WG

関西支部を母体とした連携を構築。関西支部内に研究会を立上げ、これと日本鉄鋼協会計測・制御・システム工学部会内の研究会・フォーラムとの連携を図る構想を立案した。連携事業としては、共同研究会開催、特集論文号企画などを想定している。

上記 2 分野以外に化学プラントなどについても取組みを検討して行く。

2. 1 6 国際標準化委員会

2008 年度の標準化準備 WG の構想検討と報告にもとづき、国際標準化活動で先行する友好工業会である日本電気計測器工業会(JEMIMA)、製造科学技術センター(MSTC)および日本ロボット工業会(JARA)からの委員も含み 2009 年 1 月から国際標準化委員会としてスタートをした。SICE の国際標準化活動への積極的な姿勢をアピールすべく下記事業を実施した。

(1) 2009 年 2 月末の第 48 回定時総会開催時に、経済産業省産業技術環境局情報電子標準化推進室の井上室長による国際標準化の取組みとビジネスへの活用方策についての特別講演を持った。

(2) ICCAS-SICE2009 におけるメガ OS(8 月 19 日、4 セッション、21 論文発表)実施

計測・制御・システムインテグレーション分野における国際標準化の最新状況と将来展望を討論するキーノート・セッションに引続き、同分野の三大産業応用技術であるプロセスオートメーション(PA)、ロボットオートメーション(RA)およびファクトリーオートメーション(FA)の各セッションにおいて最新テーマを発表、活発に討議。

(3) 国際標準化活動に対する新聞掲載

8 月 14 日、原会長、新委員長、久間顧問により新聞社 2 社の記者に対して ICCAS-SICE2009 におけるメガ OS を中心に説明。報道機関に対して SICE のプレゼンスを高める絶好の機会となった→8 月 17 日付け日刊工業新聞朝刊に記事掲載

(4) ISA(International Society of Automation)の標準化委員会議長 D.G.Dunn 氏による招待講演

8 月 17 日、(社)日本電気計測器工業会(JEMIMA)において当委員会主催の講習会で「ISA/ANSI 標準化の戦略・状況とアジアにおける協調」という演題で実施。関連分野の企業から約 30 名参加

(5) 計測展 2009 TOKYO(主催：日本電気計測器工業会、共催：日経 BP 社)の公的機関コーナー

への出展と SICE 企画による国際標準化講演会

計測展 2009 TOKYO(11 月 18 日～20 日、東京ビッグサイト)の公的機関コーナーに主催者である日本電気計測器工業会の企画と連携して出展した。この展示は、国際標準化委員会の企画で計画したが、理事会の承認を得ての SICE としての初めての出展であり、総務委員会と協力して運営・説明にあたった。ブースへの来場者が 120 人に達し、SICE を業界に知らしめる意味でこれまでの会誌・HP、コンファレンスを中心とした広報活動に新しいインタラクティブな手段を加えることにもなり、産業界との連携の基盤づくりに大きな一歩を踏み出したことが、評価できる。

11 月 19 日、「イノベーションの時代における国際標準化」と題して我が国の官・産・学の代表者による講演会を実施し、会場一杯の聴講者を得て SICE 国際標準化事業の初年度のジャンプスタートを大きく印象付けることができた。

①国際標準化の戦略的展開と最近の動向(経済産業省産業技術環境局 井上室長)

②国際標準化活動は事業に貢献する(国際電気標準会議評議会委員 八木氏)

③国際標準化の動向と計測自動制御学会の果たすべき役割(新委員長)

また、ブース展示では、SICE の現況と 2011 年の 50 周年に向けた展望を、映像とポスターで部門活動、横幹連合との連携を含む主要活動とともに紹介。3 日間で約 110 名の熱心な来場者

(6) 将来テーマ発掘のための賛助会員および部門へのアンケートとヒアリングを実施

アンケート(賛助会員・175 件、部門部会・64 件)をメールにより依頼(4/30)、「標準化したい NP 提案がある」との回答者から随時ヒアリング予定。これまでにトヨタから 2 回実施

(7) 学会賞に国際標準化賞(功績賞、奨励賞)を新設

初回である今年度については、学会誌 11 月号にて公募を行い、2009 年度初年度の特別な取扱いの承認を受け、2010 年 2 月の定時総会にて贈呈する予定。

(8) 委員会 7 回開催(1/13, 3/5, 5/18, 7/17, 9/7, 11/2, 12/22)

(9) 学会誌記事(学会だより)を掲載

・「SICE が国際標準化活動への取組みをスタート」、6 月号

・「ICCAS-SICE2009 における国際標準化活動に関する Organized Session 開催報告」、11 月号

また、以下の内容については、次年度も引き続き検討をしたい。

・ 学会活動を通じたアジアでの団結への取組み

・ 新規提案を予定している団体の支援

・ SICE の部門・賛助会員の国際標準化提案へのサポート

・ 標準化活動に関する論文制度を推進

・ 標準化関係の論文が評価される環境整備

2. 1 7 学会連合推進委員会

特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)などと協力して学会横断的な活動を実施し、学術文化の向上発展に寄与するとともに、その成果を社会に還元することを目的として活動を行った。

2009 年度の報告は次の通りである。

(1) 2009 年 4 月 20 日に山上会館で開催された横幹連合通常総会に出席した。

(2) 2009 年 6 月 18 日に 2009 年度第 1 回委員会を開催した。

(3) 2009 年 8 月 18 日(火)～21 日(金)に開催した ICCAS-SICE2009 において、横幹連合に OS と展示を行ってもらった。

(4) 2009 年 11 月 21 日(土)、22 日(日)に大阪大学豊中キャンパスで開催された第 52 回自動制御連合講演会において、各部会からの OS を実施した。また日本感性工学会との共催 OS も実施した。

(5) 2009 年 12 月 3 日(木)～5 日(土)に東北大学片平キャンパスで開催された第 3 回横幹連合コンファレンスにおいて、SICE 推薦論文(東京大学 篠田先生)を発表した。

(6) 横幹連合の行事について広報、勧誘をはじめとして積極的に成功に向けた支援を行った。

2. 1 8 教育・認定委員会

(1) CPD WG

CPD ポイント登録者は 222 名であった。会告に従い特典の付与(50 点以上、対象者 100 名)を決定し、さらに、上位 3 名を SICE Annual Conference 2009 にて表彰した。直近の課題は、「CPD ポイント管理システム」による自動集計対象者と、本人の意思による申請者が混在しており、その区別である。他学会からの問合せがあり、連携などを視野に入れた検討に着手した。

(2) 計測制御エンジニア試験・認定 WG

- 1) 「計測制御エンジニア認定試験」を 2009 年 1 月に東京, 2009 年 3 月に名古屋地区で実施した.
- 2) 東京以外での試験を, これまで九州, 名古屋で実施し, 2010 年 3 月に関西地区で実施する.
- 3) 認知度向上を目的に, 会誌に合格者を紹介することを継続しており, さらに, 第 52 回自動制御連合講演会において, 計測制御エンジニア会の協力を得てオーガナイズドセッションを実施し, 認定試験の広報活動を行った.
- 4) PR のためのポスターを作製した.

(3) 日本工学会 CPD 協議会対応 WG

本年も継続して協議会に出席し, 各学会の教育体制について意見交換を行った. 継続教育の受講履歴統一化に関する検討報告書を解析し, SICE の CPD 運用が, 他学会に比べて先行していることを確認した. ポスターによる説明の場においても, 他学会に比べて好評を得た.

(4) JABEE WG

SICE 関連分野での受審に不利にならないように, 日本機械学会および電気学会からの連絡を密に, かつ, 円滑に行うため, 各学会担当窓口の体制を継続した.

2. 19 Annual Conference(AC)委員会

Annual Conference を本学会最大のイベントとして位置づけ, 事業・国際・会員・出版などさまざまな角度から議論するとともに, SICE Week に関しても主に会員サービスの観点から議論し, 両行事の実行委員会を支援するために, Annual Conference(AC)委員会が 2009 年度より新設された. 国際委員会の会務を引き継いで個々の AC を管理・支援するとともに, 運営体制の見直しと整理に着手した.

(1) ICCAS-SICE2009

- 1) 2009 年 8 月 18 日(火)~21 日(金), 福岡国際会議場にて韓国の ICROS と合同で開催した. 参加者 29 カ国 1362 名(うち海外 431 名), 投稿論文数 32 カ国 1,269 編(うち海外 585 編, オーガナイズドセッション 518 編, 一般セッション 728 編, 産業論文 23 編), 最終受付論文数 31 カ国 1,121 編(うち海外 454 編, オーガナイズドセッション 488 編, 一般セッション 610 編, 産業論文 22 編). 初めての試みとして, Industrial Paper(産業論文)というカテゴリーを設けて, 産業界からの論文投稿を促した. また, Tutorial Mini-Course, Interactive Session, Special Poster Session, Sponsored Industrial Session を実施した.
- 2) International Scholarship, Annual Conference Award, Interactive Session Award, Student Travel Grant Award を贈呈した.
- 3) 併設のワークショップとして, Third Japan-China Joint Workshop on Control および Particle Filters: Computer Intensive, Statistical Signal Processing Technique を実施した.
- 4) SICE Week 2009 として, SICE Week 講演会, ランチョンセミナー, 夏休み SICE ロボット工作教室を開催した.

(2) 今後の SICE Annual Conference について

- 1) 2010 年度より Steering Committee を Annual Conference(AC)委員会顧問へ改組することになった. また, 企画・査読体制を強化するため, 部門協議会と連携して Track Chairs を増員し 2 年任期とした. 開催地と実行委員長の決定方法についても検討した.
- 2) SICE2010 は, 台北 Grand Hotel にて 2010 年 8 月 18 日(水)~21 日(土)に開催予定.
- 3) SICE2011 は, SICE 創立 50 周年事業として, 早稲田大学で 2011 年 9 月に開催予定.
- 4) SICE2012 は, 秋田大学で開催予定.
- 5) SICE2013 の開催地について検討した.

2. 20 会員・広報委員会

(1) シニア層を対象とした会費などの優遇の新制度開始

2009 年 2 月の第 48 回定時総会の承認を経て 2010 年度からの導入を決定した, 表記制度については, 10 月末日をもって第 1 回の募集を締め切り, 合計 75 名からの申込みがあり, 理事会にて適用を承認した.

(2) Web ページの改良に関する検討

Web ページの改良については, 2008 年度より引き続いて検討を進めているが, サーバーの設置形態や HP 整備の具体的な進め方で調整不足の点があり, 現時点では継続審議となっている. 今後, Y 50 実行委員会や IT・学会モデル委員会とも協議の上, できるだけ早急に整備を進める必要がある.

(3) 計測展 2009 TOKYO での学生・若手による見学会

例年の学生・若手チュートリアル講演会を, 適任講師陣の確保などの面で, 開催が困難であった

ため、代わりに計測展 2009 TOKYO 見学会を行った。国際標準化委員会と連携して、学生会員を含む学生・若手の勧誘と見学での説明を行った。SICE ブース来場者だけでも学生・若手が約 20 人あったので、初めての試みではあったがチュートリアル的成果は十分あったと思われる。

(4) 新規入会勧誘および賛助会員の継続対策

シニア層への優遇制度の開始に加え、学生会員や賛助会員の入会促進および退会抑制についての理事会アクションを継続した。現時点では、会員数は引続き減少している。また、景気悪化に伴い賛助会員が減少し、この対策として、入会しやすい賛助会員制度の検討を開始した。

2. 2 1 IT・学会モデル委員会

学会運営モデルの実現に向けて、昨年度からの検討課題を再検討し、スケジュールの設定と進捗管理を開始した。それに基づき、以下のサブシステム開発を実施した。また、ASP 契約にもとづく学会ネット社によるアウトソーシング保守運用の継続を理事会に提案してその承認を得た。

(1) 論文集支援システム

論文集委員会 IT-WG に協力いただき、最終版テストを実施中。その結果に基づき最終仕様を確定し、リリースに向けて追加修正の予定。

(2) 会誌支援システム

昨年度から継続してシステム開発を保留し、論文集支援システム開発を優先している。

(3) イベント支援システム

ユーザ自らがイベント特有な部分の修正をできるようなシステムに改善し、実運用を目指して開発中である。

(4) 会員管理支援システム

最終仕様を確定し、リリースに向けて開発中である。

(5) CPD 支援システム

CPD 登録および申請に活用中。

更に、次期契約更新時期までに、学会運営モデルシステムの経済手的かつ安定的運用体制を確立すべく、システムの開発・管理体制を以下のように決定した。

- 1) 仕様書、IT・学会モデル委員会議事録を Web ベースでいつでも閲覧できるような仕組みを導入した。
- 2) 論文支援システムの早期立上げを支援するため、テスト仕様書確定作業のためのアルバイト経費を理事会に提案してその承認を得、人選を行った。
- 3) 代替システムの可能性を探るべく、他学会の論文査読システム・イベント支援システム、SI 部門のイベントシステムの調査を行った。

2. 2 2 総務委員会

関連委員会、事務局と連携し、理事会の円滑な運営を含む業務のより一層の効率化を目指して、主に次の業務を行った。

(1) 各会務の引き継ぎ事項・懸案事項の整理を行い、3 月中の理事担当会務および委員会の実質的引き継ぎを支援した。2008 年と同様に、ほぼすべての委員会で早期の引き継ぎが実行され、具体的な活動がスタートできた。

(2) 会長・副会長が担当した会務横断的ミッションについて協力を行った。特に、学会モデルによる IT 化の検討、50 周年記念事業に向けた活動の支援、学生やシニアに向けた会員サービスの向上、産業界への貢献と学会活動への参画推進、SICE の新公益法人化に向けた取組みなどを行った。

(3) 新公益法人移行申請に向けて、公益比率 50%の維持、収支相償が継続的に維持できるように検討してきた。また、財務設計、制度設計についての検討も行った。

(4) 会員数減少に伴う事業活動への影響、シニア会費の導入について検討を行った。SICE の将来を財政面からも考察してきた。

(5) 事務職員の昇給、昇級、賞与などについて検討し、決定した。

3. 部門協議会

部門は、支部および将来ビジョン TF とで部門・支部グループを形成し、SICE の学術・技術に関する活動の中心的存在として学会の一層の活性化を目指せるような体制構築を行った。

特に、部門と支部の連携、部門連携活性化委員会における部門横断型活動とインキュベーション活動、SICE 企画委員会および将来ビジョンとの連携などについて、通常の部門間の情報交換に加えて重点的に活動を展開した。

また、上記の連携に関連して、福岡で開催された SICE Annual Conference (ICCAS-SICE2009) において、部門・支部の合同ポスターセッションを開催した。SICE 全体の活動状況の理解促進のために、これらを 1 冊にまとめた Proceedings を刊行した。

以下、主要な項目ごとに報告する。

(1) 部門運営

部門協議会の定例活動として、各部門の状況報告による学会活動全般の情報共有化を行った。具体的には、各部門運営委員会報告、各分会・調査研究会活動報告、行事計画・予算報告、学会賞報告とそれらの理事会への報告、部門共催・協賛などの承認およびそれらの理事会への報告、国際会議共催などの国際委員会への報告、基金取り崩し申請報告・承認、などを行った。

(2) 部門連携活性化委員会

部門連携・活性化専門委員会(部活委)は発足より 2 年目で、活動を軌道に乗せるために重要な年との認識のもと活動を行った。部活委のミッションは、新分野のインキュベーション、異分野の連携の促進、外部に向けてのプレゼンスの強化などである。そのため、設置されている 2 つの技術専門委員会、すなわちライフサイエンス技術専門委員会と組み込みシステム技術専門委員会はそれぞれ、SSI2008 や SI2009、ICCAS-SICE2009 や自動制御連合講演会などで部門や分野を越えた OS を企画・実行し、分野の連携、外部に向けてのプレゼンスの向上を図った。また、新分野の創出の仕組みづくりのための議論を行い、従来の「問題を解決する」こと以外に、「問題を定義し新たなコンセプトを作る」ことをミッションとする技術専門委員会の設立に向けて活動することになった。さらに、将来ビジョン TF と連携して活動し、将来ビジョン委員会の体制、役割分担、連携についても議論した。

(3) 部門・支部連携

部門と支部との連携を深めるために、昨年度に引き続き、部門協議会の開催を支部と合同で開催した。本年度は関西支部に調整をお願いし、関西支部運営に携わっている方々と部門協議会メンバーとで、支部の紹介、部門の紹介、地域と部門との関係、支部における運営上の問題、支部と部門との連携の方法論など、多岐にわたって意見交換を行った。部門から支部に向けて、各部門および部門協議会が活動予算を有していることから、地域発(支部発)の分会あるいは調査研究会設置の提案を歓迎したいとの要請を行った。

(4) 広報活動・会員サービスの充実

各部門の活動を広く紹介するため、SICE Annual Conference (ICCAS-SICE2009)において、全ての部門および部門に属する分会・調査研究会、部門連携活性化委員会に属する 2 つの技術専門委員会を紹介するポスターセッションを支部との連携により開催した。

これらのポスターは、SICE Annual Conference の公式行事と位置づけるために全て英語とし、また、全てのポスターを 1 冊にまとめた Proceedings 別冊を Annual Conference 実行委員会に作成いただいた。この Proceedings は部門・支部紹介のポスターのみで構成されており、今後の SICE の活動広報にも利用できるものである。

3. 1 計測部門

2009 年度(平成 21 年度)計測部門事業の概要

当部門は、社会の安全・安心に資する基盤技術である。計測部門は、計測技術の開発、進歩、普及に寄与するための活動を継続して行うとともに、新しい技術を用いた計測手法の開発や新たな計測分野の開拓に関して専門的な活動を行うことを目標に、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供

第 26 回(センシングフォーラム計測部門大会)、傘下の分会・調査研究活動(共催・協賛行事、講習会、研究会、見学会、見学会など)を実施した。特に今年度は、センシングフォーラム内でチュートリアルセッションを開催し、「不確かさの評価」の啓発につとめた。

2. 部門および分会・調査研究会の活性化への取り組み

部門論文賞に関する受賞規程を整備し、部門が関与する科学技術および産業の分野における発展に寄与するところが大きく、かつ優れた成果を挙げた論文に対して授与し、計測分野の活性化をはかった。

3. 部門運営に関するトピックス

部門内の複数の分会が連携して、1 つの事業を実現するためのひな形を作成した。また、それにもとづいて、センシングフォーラム運営委員会と先端電子計測分会の共同事業として、前述のチュートリアルセッションが実現された。

主な事業内容は次の通り。

1. 第26回センシングフォーラム・計測部門大会(学術講演会)
 - 1) 9月28日(月)～29日(火) 場所：東京工業大学 講演数：63 参加者：127名
特別講演：東京工業大学 中本 高氏「嗅覚インタフェース ―匂いセンサと嗅覚ディスプレイ―」
トピックス：東工大130周年記念行事の1つとして様々な支援を得ることができた。
2. 部門共催・協賛行事 3回
 - 1) 3月5日(木)～6日(金) DIA 2009, 場所：日本大学工学部 福島県郡山市田村町徳定中河原1
 - 2) 6月4日(木)～5日(金) 第76回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会, 計測自動制御学会力学量計測部会 第26回合同シンポジウム 場所：大宮ソニックシティ
 - 3) 10月16日(金) 計量史をさぐる会 2009, 場所：(株)インダ滋賀事業所
 - 4) 12月3日(木)～4日(金) VIEW2009, 場所：パシフィコ横浜 アネックス・ホール
3. 部会・調査研究会行事 18回(現時点で確認できる数値)
4. 国際事業 4回
 - 1) 6月1日(月)～4日(木)APMF2009 運営および参加
 - 2) 6月17日(水)～19日(金)INSS2009 運営および参加
 - 3) 8月18日(火)～21日(金) ICCAS-SICE2009 OSなどで参加
 - 4) 9月6日(日)～11日(金)IMEKO XIX WORLD CONGRESS-Fundamental and Applied Metrology
6. 部門運営に関する委員会など
 - ・部門運営委員会 3回・部会・調査研究会運営委員会 27回
7. 部門賞

部門論文賞：(株)シグマ・成田大助, 茨城大学・馬場 充「レーザーレンジファインダを用いた柱状物体の3次元形状測定と表面反射特性推定の同時実現法」(計測自動制御学会論文集 vol.44 No.2)」

部門論文賞：三菱電機(株)・蔦田広幸, 平位隆史, 鷺見和彦, 伊藤 寛, 三菱電機ビルテクノサービス(株)・志賀 諭「手すり加速度を用いたエスカレーターチェーンの弛み異常診断」(計測自動制御学会論文集 vol.44 No.8)

部門技術奨励賞：西野敦洋・産業技術総合研究所「10 N・m 実荷重式トルク標準機のモーメントアーム長さの温度補正について」

部門技術奨励賞：栗原 徹・東京大学「時間相関イメージセンサと多重極変調リング照明を用いた表面検査」

部門技術奨励賞：梶川宏明・産業技術総合研究所「圧力標準の遠隔校正用伸介器の開発」

部門技術奨励賞：小山翔一・東京大学「偏微分方程式の空間荷重積分による波源定位の直接解法」

部門技術奨励賞：牧野泰才・東京大学「二次元信号伝送技術に基づく筋電位の多点計測－磁界結合型カブラの検討－」

3. 2 制御部門

ここ数年特に産業界からの学会活動への参加を推進して、全体として活動の活性化を行った。

- 1) 研究活動の場と情報の提供

制御部門大会, 3つのシンポジウム, 8回のセミナー, その他部会・調査研究会が主催する研究会を多数開催して, 制御部門の研究者, 企業関係者, 学生が活発に議論をできる場を提供した。
- 2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取り組み

今年度新たに, プラントモデリング部会, ディペンダブル制御系調査研究会, 次世代制御技術調査研究会を立上げた。大学からのメンバー, 産業界からのメンバーのバランスをよくし, 産学連携がより活性化するように配慮した。また, 大学, 産業界の双方から20～30台の若手メンバーを増やして新規メンバーが参加しやすくした。
- 3) 部門運営に関するトピックス

昨今の不景気を反映して, 有料セミナーへの参加者減が予想されたが, 例年より回数を1回減らし, その他は内容を見直し魅力あるセミナーを開催して, 参加者減を最小限に収めた。

新公益法人への移行に伴い, 財務関係の見直しを行った。例年, 蓄えていた基金については, 50周年記念事業などへの活用を議論した。

部門賞の選考を例年より早めて, 次回部門大会の開催通知時に受賞者発表できるようにした。

主な事業内容は次の通り。

(1) 部門大会

- 1) 3月4日(水)～3月6日(金) 場所：広島大学 講演数：174件, 参加者：281名
「第9回制御部門大会」

(2) 部門主催セミナー・講習会 8回

- 1) 1月15日(木), 16日(金) 場所: 大阪(千里中央) 参加者: 33名
SICE セミナー「実践的な制御系設計」
- 2) 3月3日(火) 場所: 広島大学 参加者: 51名
第8回制御部門ワークショップ「数式処理によるシステム解析・設計のための新たな展開」
- 3) 5月11日(月), 12日(火) 場所: 大阪府立大学 参加者: 21名
SICE セミナー「実践的な制御理論」
- 4) 5月13日(水), 14日(木) 場所: 東京大学(本郷) 参加者 43名
SICE セミナー「制御のためのシステム同定」
- 5) 9月24日(木), 25日(金) 場所: 東京工業大学 参加者: 38名
SICE セミナー「現代制御理論入門」
- 6) 12月3日(木), 4日(金) 場所: 東京大学(本郷) 参加者: 54名
SICE セミナー「実践的な制御系設計」
- 7) 10月27日(火) 場所: 慶応義塾大学 参加者 16名
実践的適応学習制御調査研究会 第3回講義会「適応・学習制御の新しい潮流1」
- 8) 12月25日(金) 場所: キャンパス・イノベーションセンター 参加者 32名
実践的適応学習制御調査研究会 第4回講義会「適応・学習制御の新しい潮流2」

(3) 部会・調査研究会行事 23回 以下は主要なシンポジウム

- 9) 1月26日(月)~27日(火) 場所: 東京電機大学 発表件数: 18件 参加者: 28名
「第9回適応学習制御シンポジウム」
- 10) 5月14日(木)~15日(金) 場所: 防衛大学校 発表件数: 19件 参加者: 45名
「第26回誘導制御シンポジウム」
- 11) 9月14日(水)~16日(金) 場所: 大阪コスモスクエア 発表件数: 86件 参加者: 149名
「第38回制御理論シンポジウム」

(4) 部門運営に関する委員会など

- 1) 部門運営委員会 4回
- 2) 制御理論・技術部会運営委員会, 事業委員会, 学術委員会, 調査研究会運営委員会など開催

(5) 部門賞

- 1) パイオニア賞: 石川将人氏(京都大学)
- 2) パイオニア技術賞: 加納 学氏(京都大学)
- 3) 第8回制御部門大会賞: 萩原朋道氏(京都大学), 大塚敏之氏(大阪大学)
- 4) 研究奨励賞: 鈴木雅康氏(名古屋大学), 朴 翔一氏(東京工業大学), 清水 光氏(東京大学), 廣瀬尚人氏(本田技研工業株式会社), 佐藤訓志氏(名古屋大学)

3.3 システム・情報部門

2009年度(平成21年度)システム・情報部門事業の概要

当部門は, 主に, 基礎理論から工学的実システム, さらには社会経済システム, 生命システムなど多様な広がりを持つシステム・情報分野の研究者, 技術者, 学生を主な対象として, SICE の会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に, 以下の事業を展開した.

(1) 研究活動の場と情報の提供

システム・情報部門学術講演会(SSI2009), 傘下の部会・調査研究活動(共催・協賛行事, 講習会, 研究会), サマースクールを実施した. また, ホームページ Web を通じての広報・情報提供にも目立った進展があった.

(2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取り組み

ICCAS-SICE2009 で多数の Invited Session や Organized Session を企画し, システム・情報分野における国際化に大きな役割を果たした. また若手・学生向けの生体医工学サマースクールや創発システムシンポジウムなどを通じて部門の将来を担う若手の育成にも成果が見られた. また, SSI2009 では各部会間の連携を重視した企画を多く組むなど, 各部会・調査研究会の間での連携を強化し, システム・情報分野に関する新たな学術領域の創出に努めた.

(3) 部門運営に関するトピックス

本年度の SSI2009 においては, 各部会が連携した企画を重視することで, 結果として過去最高の講演件数を実現した. また, 部門として一体となった活動を推進するための将来構想委員会や SSI 企画委員会を設立, 部門の企画・検討を精力的に進める体制の構築に努めた. さらには, HP の刷新, メーリングリストの整備など, 部門独自の IT 化にも取り組んでおり, 今まで以上に積極的に情報を発

信する体制が整いつつある。

主な事業内容は次の通り。

1. システム・情報部門学術講演会(SSI2009)

- 1) 11月24日(火)～26日(木) 場所：東京工業大学すずかけ台キャンパス すずかけホール
講演数：154件 参加者：210名
招待講演：東京大学 萩谷昌己氏「DNAロボットの自動設計に向かって」
名古屋大学 高田広章氏「組込み制御システムのディペンダビリティ」
特別講演：京都大学 石田 亨氏「フィールド情報学：計画の学から行動の学へ」
東京工業大学 出口 弘氏「エージェントベースのダイナミカルシステムのモデリング」

2. 部門共催・協賛行事 5回(共催2回, 協賛3回)

- 1) 8月10日～12日 第7回生体医工学サマースクール
- 2) 9月17日～18日 第19回インテリジェント・システム・シンポジウム(協賛)
- 3) 9月23日～25日 International Workshop on Natural Computing
- 4) 11月19日～21日 第3回移動知国際シンポジウム
- 5) 12月19日～20日 第3回進化計算シンポジウム

3. 部会・調査研究会行事 15回

- 1) 1月22日～23日 第21回自律分散システムシンポジウム
場所：鳥取県民文化会館
- 2) 2月23日 第3回リスク認知システム研究会
場所：電気通信大学
- 3) 3月11日 第6回SICE生物制御システム調査研究会&移動知合同研究会
場所：早稲田大学大久保キャンパス
- 4) 3月17日～18日 第36回知能システムシンポジウム
場所：キャンパスプラザ京都
- 5) 5月19日 第1回ヒューマンシステム研究会
場所：筑波大学 大塚キャンパス
- 6) 6月12日 第4回リスク認知システム研究会
場所：計測自動制御学会 本部会議室
- 7) 6月19日 第44回自律分散システム部会研究会
場所：東京大学 本郷キャンパス
- 8) 8月8日～10日 第15回創発システムシンポジウム
場所：インテック・大山研修センター
- 9) 9月14日 離散事象システム研究会
場所：財団法人にんがた産業創造機構
- 10) 9月24日～26日 第24回生体生理工学シンポジウム
場所：東北大学工学部
- 11) 10月22日 第2回ヒューマンシステム研究会
場所：筑波大学 大塚キャンパス
- 12) 12月7日～8日 第46回離散事象システム研究会
場所：北陸先端科学技術大学院大学 東京キャンパス
- 13) 12月12日 イノベティブコンピューティングに関する調査研究会
場所：兵庫県立大学 神戸キャンパス
- 14) 12月19日 第45回自律分散システム部会研究会
場所：電気通信大学
- 15) 12月21日 第5回リスク認知システム研究会
場所：コンファレンス銀座

などを開催

4. 部門運営に関する委員会など

- ・部門運営委員会 4回

5. 部門賞

優秀論文賞：染谷博司(統計数理研究所)

奨励賞：巻口誉宗(北海道大学), 植村 渉(龍谷大学), 稲垣伸吉(名古屋大学)

3. 4 SI 部門

当部門は、主に、システムインテグレーションの観点から理論と技術分野の研究者、技術者、学生を主な対象として、SICE の会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に、以下の事業を展開した。

1) 研究活動の場と情報の提供

年度末の 12 月には、東京にて、登録参加者数 1,000 名規模で部門大会を開催した。昨年に引続き投稿数、参加者ともに増加の傾向であり、本部門大会の OS 方式は定着している。システムインテグレーション分野の重要性に対する認識と SI 部門へ期待は年々高まっている。また、併催行事として 3 件のシステムインテグレーションフォーラム(一般公開行事)を実施した。さらに昨年度に引続き、部門講演会に先立って IEEE との共催で国際シンポジウム SI International 2009 を東京で成功裏に開催した。このほか、3 月には RSJ, JSME/RMD との共催でロボティクスシンポジウムを開催した。

2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取り組み

部門に所属する 20 部会と 3 調査研究会はそれぞれ独自性を持ちつつ、1 年を通じて関連な活動を展開した。全体で 85 回の運営委員会・研究会が実施されている。

3) 部門運営に関するトピックス

部門運営に関して、表彰推薦の活性化と、円滑な情報伝達のためのインフラについて議論を行った。特に運営委員会用各種資料の電子化により委員会のペーパーレス化を実施するとともにファイルアーカイブシステムにより議事録などを HP から入手できるよう枠組みを整えた。

主な事業内容は次の通り。

(1) 第 10 回システムインテグレーション部門講演会(SI2009)

- 1) 12 月 24 日(木)～26 日(土)、場所：東京・芝浦工業大学豊洲キャンパス、講演数 703 件、参加登録者数：1,061 名。特別講演「重工業におけるシステムインテグレーション」講師 出川定男氏 ((株)IHI 取締役 執行役員 技術開発本部長)。特別行事 SICE 各部門長によるパネルディスカッション「次世代イノベーションのためのシステムインテグレーション—SICE の将来を考える—」。

(2) 部門共催・協賛行事 18 回(共催 15 回・協賛 3 回)

- 1) 2 月 5 日(木)～7 日(土)、「The 14th International Symposium on Artificial Life and Robotics」(共催)
- 2) 5 月 8 日(金)～10 日(日)、「ロボカップ ジャパンオープン 2009 大阪大会」(共催)
 - * ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞
 - * ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞
- 3) 5 月 24 日(日)、「ROBOMEC2009 チュートリアル：生産に活用するロボット技術の現状」(共催)
- 4) 6 月 29 日(月)～7 月 5 日(日)、「RoboCup 2009」(共催)
 - * RoboCupRescue Simulation League SICE International Award
 - * RoboCupRescue Robot League SICE International Award
- 5) 7 月 14 日(火)、「第 85 回システム制御研究会」(共催)
- 6) 7 月 24 日(金)、31 日(金) 触覚技術の基礎と応用(共催)
- 7) 7 月 25 日(土)、福祉アイデアコンテスト(協賛)
- 8) 8 月 8 日(土)～9 日(日)、「第 9 回レスキューロボットコンテスト」競技会本選(共催)
 - * レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞
- 9) 8 月 27 日(木)、「高度センサ応用による人間中心システムワークショップ」(共催)
- 10) 10 月 24 日(土)、「ユビキタス RT システム研究センターシンポジウム」(共催)
- 11) 10 月 28 日(水)～29 日(木)、「第 3 回力触覚の提示と計算研究会」(共催)
- 12) 11 月 28 日(土)、「第 87 回システム制御研究会」(共催)
- 13) 12 月 1 日(火)、「閉鎖型植物生産システムの講演会&見学会」(協賛)
- 14) 12 月 2 日(水)～4 日(金)、「インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ」(協賛)
- 15) 12 月 12 日(土)、「レスコンシンポジウム 2009」(共催)
- 16) 12 月 18 日(金)～19 日(土)、「ADVANTY2009」(共催)
- 17) 12 月 24 日(木)、RT ミドルウェアコンテスト(共催)
 - * 計測自動制御学会 RT ミドルウェア賞(副賞賞金) 10 万円
- 18) 12 月 25 日(金)～26 日(土)、「中学生のためのコンピュータグラフィックス講座」(共催)

- (3) 部会・調査研究会行事 のべ 85 回
 - 1) 各部会の運営委員会 45 回
 - 2) 各部会主催の見学会・講演会・シンポジウム・展示会 16 回
 - 3) オーガナイズドセッション 国内学会 18 回, 国際学会 6 回
- (4) 計測自動制御学会会誌・論文集
 - 1) 会誌「モーションメディアとインフォマティブモーション」(2009 年 6 月号)
 - 2) 会誌「空間知—私たちの生活を支える脳・身体の拡張空間の創出—」(2009 年 12 月号)
 - 3) 論文集「SI2008 特集号」(2009 年 12 月号)
- (5) 部門運営に関する委員会など
 - 1) 部門運営委員会 6 回
- (6) 部門賞
 - 研究業績賞(1 件): 出口光一郎氏(東北大学)
 - 技術業績賞(1 件): 福島 E.文彦氏(東京工業大学)
 - 功績賞(1 件): 油田信一氏(筑波大学)
 - 研究奨励賞(2 件): 田中由浩氏(名古屋工業大学), 村井昭彦氏(Disney Research)
 - 若手奨励賞(5 件): 東森 充氏(大阪大学), 村崎和彦氏(東京大学),
打田正樹氏(福井工業大学), 高嶋 淳氏(東京工業大学), 森上雄太氏(広島大学)
 - 貢献表彰(3 件): 佐々木実氏(岐阜大学), 森田良文氏(名古屋工業大学), 田中孝之氏(北海道大学)

3. 5 産業応用部門

産業応用部門は、「実践が理論を越える, 技術を生み, 技術を役立て, 技術を評価する産業応用部門」をキャッチフレーズに, 計装技術交流部会, 流体計測制御部会, 計測・制御ネットワーク部会の 3 部会と計測制御エンジニア会を中心として, シンポジウム・講習会などの開催, 部門表彰, 産業論文集の推進, 各大会への協力などを実施し, 学会および産業界での活動を行った。

主な事業内容は次の通り。

- 1. 産業応用部門大会
 - 1) 11 月 5 日(木)～6 日(金) 場所: 東工大 大岡山キャンパス, 講演数: 24, 参加者: 168 名
基調講演: 東京大学 江崎 浩氏 「インターネット技術を用いたオープン環境・省エネ対策」
各部会のシンポジウムと一般講演
トピックス: 賛助会員(50 名以内)ならびに学生を無料聴講とし, 集客の効果があつた。
- 2. 部門共催・協賛行事
 - 1) 2 月 18 日(水)～19 日(木) JPCERT/CC「制御システムセキュリティワークショップ」, 「制御システムセキュリティカンファレンス」(学会共催行事)に, 計測・制御ネットワーク部会から参加(講演) 場所: 目黒雅叙園, 参加者: 150 名
 - 2) 12 月 9 日(水) 「計装制御技術会議」(学会後援行事)にて「安全・安心なシステム連携」に, 計測・制御ネットワーク部会から参加(講演) 場所: 建築会館ホール(東京)
- 3. 部会・調査研究会行事
 - 1) 計装技術交流部会
 - ・よく見る会: 2 回実施, 参加者 30 名
 - ・よく知る会: 3 回実施, 参加者 60 名
 - 2) 計測制御エンジニア会
計測制御エンジニア試験対応: 1 月(東京), 3 月(名古屋), 12 月(東京)
総会: 11 月 6 日 参加者 15 名
 - 3) 流体計測制御部会
ICCAS-SICE2009 にて FLUCOME-J を開催
 - 4) 計測・制御ネットワーク部会
ICCAS-SICE2009 にて OS「Technologies and Standardization for information cooperation in PA and FA」を日本電気計測器工業会(JEMIMA) PA/FA 計測制御委員会と共同で企画・開催, 参加者 30 名
- 4. 部門運営に関する委員会など
 - 1) 部門運営委員会 5 回
- 5. 部門賞
 - 技術賞 1 件: 藤井憲三氏(出光興産), 山本 透氏(広島大学大学院)
 - 奨励賞 3 件: 門内靖明氏(東京大学), Chi Nan Pai 氏(東京工業大学), 一柳隆義氏(防衛大学校)

功績賞：該当なし

4. TF/将来ビジョン委員会

4. 1 SICE-City

(1) SICE-City 全体構想

全体運営会議を5回(招待講演1件含む)開催し、今後の推進方法を協議した。

SICE-City 構想推進のために、SICE-City 運営委員会を「SICE-City 全体構想を広げていくシンクタンクの役割」と位置づけ、活動を一本化して将来ビジョン委員会の下で活動を継続していくことを決定した。それにともない2つの研究部会は、今年度で一旦休止とする。

(2) 「どこにいても繋がる安心システム研究部会」

八王子市、立川市、日野市他の自治体を対象にフィージビリティスタディを実施する予定で検討してきた。検討の過程で首都大学を中心に東京都を対象としてアプローチすることとし、SICE-City 構想を推進するために首都大学東京学長を交えて活動母体として同学内に研究環を立上げる構想を協議した。東京都庁を訪問し、今後の推進について協議した。

(3) 「人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築研究部会」を4回開催し、研究分野を検討した。現状の技術動向の共通認識を高める、SICE が現在カバーする技術分野を明らかにする、これまでつがりのなかった技術を融合させることにより新たな価値を見出す、課題解決に必要な技術・今後注力すべき技術を明らかにする、ための技術の体系化として安全安心社会構築を最終目的とした人間の計測・モデリング・誘導技術のマップ化を試み、SICE 論文(追加7年分、計10年分)のマップへの配置、マップの傾向分析(密度のばらつき)とこれまでの議論の再確認を行った。

(4) その他

横幹 Vol.3 No.1 Apr.2009 「SICE Cityー生きがい創出都市ー」解説記事で紹介

第3回横幹連合コンファレンスでの「生きがいを支援する都市 SICE City」で発表

4. 2 部門連携・活性化専門委員会との連携

将来ビジョン TF の位置づけを部門連携・活性化専門委員会に説明し連携を行った。

(1) SICE-City の活動報告

将来ビジョン委員会 2010 年度新体制・構想との連携のあり方について検討

5. 支部協議会

支部協議会では、下記の活動を行った。

(1) 支部協議会共催チュートリアル講演会の実施

支部主催、支部協議会共催として、講演会、講習会、見学会などを北海道支部、東北支部、中部支部、関西支部、北陸支部、中国支部、四国支部、九州支部において8件を実施し、学生・若手研究者を対象に SICE の活動の紹介と SICE への参画も積極的に PR した。来年度は実施後5年を経過したため今後については強化・見直しを含めて継続的に議論していく予定。

(2) SICE Annual Conference の開催地ルールの議論

Annual Conference 開催地を地方、首都圏(大都市)と海外に分類し、関西支部および中部支部の大都市グループと地方都市グループの開催パターン案を仮決めし、国際委員会などで報告した。2012 年は秋田大学での開催を決定した。また、本件は開催の手引きやガイドラインなども含めて次年度以降 Annual Conference 担当理事により継続審議される予定。

(3) 支部の活性化

支部活動の活性化のために支部基金の活用について現状を把握し、各支部へ計画的活用について検討を依頼した。また支部協議会を通じ、各支部での成功事例など活動内容の紹介をはじめ、情報交換を行った。

(4) 部門・支部の連携強化

部門・支部の連携強化のために、今年度は10月21日に関西支部一部門合同会議がキャンパスプラザ京都第2会議室で行われ、部門の紹介や関西支部の活動紹介、共催事業の議論や、連携強化・SICE 活性化のための意見交換を行った。また、ICCAS-SICE 2009 において部門協議会と支部協議会の合同ポスターセッションが公式行事として行われた。今後も積極的に連携を図っていく事にしたが、具体策については継続的に議論していく予定。

(5) 支部からの情報発信と CPD 制度への積極的参画

支部開催の主なイベント情報を事務局経由、部門にも送付し、連携の足がかりとするとともに、支部間の情報共有化としても利用することとした。また CPD ポイント制度への積極的な参画を行う

ために、学会モデルシステムを使った CPD ポイントシステムの操作説明を行い、CPD ポイントを積極的に活用していくこととした。

5. 1 北海道支部

2009 年度(平成 21 年度) 北海道支部事業の概要

北海道地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供
北海道支部学術講演会を中心として、支部協議会チュートリアル講演・講演会・ロボットトライアスロンへの協賛などを実施もしくは実施予定。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。
2. 支部運営および事業企画・検討
総会、評議員会、幹事会を開催し、またメールで密接に連絡を取り合うことにより、支部の諸活動の立案、実施した。

主な事業内容は次の通り。

1. 第 41 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会
日時：平成 21 年 2 月 26 日(木)、27 日(金)
会場：北海道大学情報科学研究科棟(札幌市北区北 14 条西 9 丁目)
協賛：情報処理学会、精密工学会、電気学会、日本機械学会、日本知能情報ファジィ学会の各北海道支部
発表：57 件
2. 特別講演会
日時：平成 21 年 2 月 26 日(木) 14:00～15:15
会場：北海道大学情報科学研究科棟
『食品産業における CO₂トレーサビリティについて』
日本トレーサビリティ協会技術顧問 デュアルカナム株式会社取締役 大松 重尚氏
3. 支部協議会チュートリアル講演
日時：平成 21 年 10 月 30 日(金) 15:00～17:00
場所：北海道大学情報科学研究科棟
『知的センサノードおよび移動ロボットによる情報収集ネットワーク構築にむけて』
理化学研究所川端知能システム研究ユニット・ユニットリーダー 川端 邦明氏
4. 講演会
 - 1) 日時：平成 21 年 1 月 15 日(木) 14:00～16:00
会場：北海道大学情報科学研究科棟
『人に優しいアシスト技術の実現を目指して』
北海道大学大学院情報科学研究科 准教授 田中 孝之氏
 - 2) 日時：平成 21 年 3 月 2 日(土) 10:00～ (共催)
場所：北見工業大学
主催：北海道エージェンツスケジュールプロジェクト
『自律的行動獲得による Animated Robot の開発』
北海道大学大学院情報科学研究科 教授 山本 雅人氏
 - 3) 日時：平成 21 年 7 月 24 日(金) 10:00～12:00 (共催)
会場：北海道大学情報科学研究科棟
主催：スマートスーツ研究会
『その手で未来を掴め！ 頸椎損傷者の就労支援を目的とするソフトパワーグローブの開発』
長崎大学工学部 助教 諸麦 俊司 氏
 - 4) 日時：平成 21 年 12 月 11 日(金) 16:00～17:30
会場：北海道大学情報科学研究科棟
『人間支援システム構築のための要素技術— 防災・防犯にむけて』
香川大学工学部 准教授 高橋 悟氏
5. 協賛事業
ロボットトライアスロン
平成 21 年 9 月 27 日(日) 北海道工業大学 5 号館

平成 21 年 10 月 11 日(日) 室蘭工業大学大学会館

6. 第 46 回支部総会

日時：平成 21 年 1 月 15 日(木) 13:00～13:45

場所：北海道大学情報科学研究科棟

7. 役員会

- 1) 第 1 回(評議員会) 平成 21 年 1 月 15 日(木) 13:00～
- 2) 第 2 回(幹事会) 平成 21 年 11 月 26 日(木) 14:00～
- 3) 第 3 回(評議員会) 平成 21 年 11 月 26 日(木) 15:00～

5. 2 東北支部

2009 年度(平成 21 年度)東北支部事業の概要

東北地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目標に、東北各県における研究集会の開催、講演会、学術講演会の開催のほか、Web を通して支部における活動の情報提供を行った。また、総会・運営専門委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

主な事業内容は次の通り。

1. 特別講演会 1 回(東北支部第 248 回研究集会を兼ねる)
 - 1) 1 月 29 日(木), 場所：東北大学工学部
講師：田山典男氏(岩手大学) 演題：「3 次元画像処理と産業用 CT のシステム構成について」
講師：渡部慶二氏(山形大学) 演題：「モデルブリッジ制御 — ロバスト制御の新しいパラダイム」
2. チュートリアル講演会(支部協議会共催) 1 回
 - 1) 9 月 7 日(月), 場所：岩手大学工学部
講師：堺 茂樹氏(岩手大学) 演題：「センシング技術開発への氷海域研究からの要望」
講師：伊藤菊一氏(岩手大学) 演題：「発熱する植物に学ぶ温度制御システム」
3. 講演会 1 回
 - 1) 9 月 29 日(火)(共催) 文部科学省大学院教育改革支援プログラム「機械工学フロンティア創成」
講演会 場所：東北大学工学部
講師：Omar Ait Aider 氏(Blaise Pascal University, France)
演題：「All that a rolling shutter camera can see?」
講師：Francois Berry 氏(Blaise Pascal University, France)
演題：「Smart Camera: An embedded vision system」
4. 学術講演会 1 回
 - 1) 9 月 7 日(月)～9 月 8 日(火), 東北支部 45 周年記念学術講演会 場所：岩手大学工学部
— 特別講演：「マルチエージェント動的システムの合意形成：一般化周波数変数を持つ動的システム表現に基づく性能解析と応用」 東京大学 原 辰次氏
— 一般発表件数：47 件
5. 研究集会 4 件
 - 1) 3 月 13 日(金) 計測自動制御学会東北支部第 249 回研究集会, 東北大学工学部
 - 2) 6 月 19 日(金) 計測自動制御学会東北支部第 250 回研究集会, 八戸工業高等専門学校
 - 3) 7 月 15 日(水) 計測自動制御学会東北支部第 251 回研究集会, 秋田大学
 - 4) 10 月 30 日(金) 計測自動制御学会東北支部第 252 回研究集会, 山形大学工学部
 - 5) 11 月 20 日(金) 計測自動制御学会東北支部第 253 回研究集会, 日本大学工学部
 - 6) 12 月 17 日(木) 計測自動制御学会東北支部第 254 回研究集会, 東北学院大学工学部
6. 支部総会 1 月 29 日(木)
7. 運営専門委員会 7 回
8. 役員・評議員・運営専門委員合同委員会 1 回
9. 協賛事業 5 件
10. 東北支部賞
優秀発表奨励賞：繁田 脩氏(東北大学), 一井宏次氏(八戸工業高等専門学校), 安田優也氏(八戸工業高等専門学校), 村越政之氏(東北大学), 高村周平氏(秋田大学), 市地 慶氏(東北大学), 八巻俊輔氏(東北大学), 植野博之氏(山形大学), 大江寛次郎氏(山形大学), 儀保耕平氏(福島大学), 衣川昌宏氏(東北大学)

5. 3 中部支部

2009年度(平成21年度)中部支部事業の概要

中部地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目標に、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供
特別講演会、研究会、講義会、学術講演会、などを実施もしくは実施予定。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。
2. 会員増加への取組み
今年度は支部創立 40 周年記念事業を企画・開催し、大学・高専と企業の交流を促進した。中部地区の大学・高専の計測制御関連研究室のシーズ一覧リストを作成し、記念事業参加者に配布した。また後日 Web でも同データの多くを公開し、この分野の研究交流の活性化に努めた。
3. 支部運営および事業企画・検討
総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

主な事業内容は次の通り。

1. 特別講演会 1 回
 - 1) 1 月 10 日(土)「自動車における制御の役割と開発課題」
場所：IMY ビル 6 階会議室 講師：トヨタ自動車(株) 大畠 明氏 参加者：43 名
2. シンポジウム 1 回
 - 1) 10 月 30 日(金) 中部支部シンポジウム
場所：メルパルク長野 参加者：105 名
ー特別講演：「国産旅客機 MRJ を世界の空へ」 三菱重工業(株) 山口恭弘氏
ーポスターセッション：ポスター発表、製品展示、技術発表
3. 学術講演会 2 回
 - 1) 11 月 9 日(月) 組み込み制御システム講演会 場所：名古屋大学東山キャンパス
 - 2) 12 月 17 日(木) 光波応用技術研究委員会講演会 場所：名城大学天白キャンパス
4. 記念事業・チュートリアル 1 件
 - 1) 10 月 2 日(金) 支部創立 40 周年記念式典・講演会 参加者：140 名
場所：トヨタテクノミュージアム産業技術記念館 大ホール
ー講演会：「脳に学ぶ制御のしくみ」 理研脳科学総合研究センター 伊藤正男氏
ーポスター展示：ポスター発表、技術展示
 - 2) 10 月 3 日(土) 支部創立 40 周年記念事業連動企画 チュートリアル講演会 参加者：41 名
場所：トヨタテクノミュージアム産業技術記念館 ホール A
講師：名古屋大学 福田敏男氏、宇宙航空研究開発機構 岩田隆敬氏、産業技術記念館 木村雅人氏
5. 研究会 20 件
振動制御を考慮した高速搬送システム研究委員会 2 件、統合知能メカトロシステム研究委員会 3 件、組み込みシステムと制御研究委員会 1 件、光波応用技術研究委員会 2 件、電機計測制御技術研究委員会 3 件、教育工学研究委員会 2 件、制御理論研究委員会 2 件、静岡地区計測制御研究委員会 3 件、三重地区計測制御研究委員会 2 件
6. 支部総会 1 月 10 日(土)
7. 支部幹事会 4 回
8. 特別幹事会 6 回
9. 協賛事業 24 件
10. 中部支部賞
 - ・ 功労賞：8 件 舟橋康行氏(中京大学)、松村司郎氏(伊藤忠エネクス)、武藤高義氏(岐阜大学)、稲熊幸雄氏(大同大学)、細江繁幸氏(理化学研究所)、都築良彦氏(ブラザー工業)、藤本英雄氏(名古屋工業大学)、土屋総二郎氏(デンソー)
 - ・ 研究賞：2 件 山元純文氏(名古屋工業大学)、河村庄造氏(豊橋技術科学大学)
 - ・ 技術賞：2 件 高羽直樹氏・竹田修二氏・室崎 隆氏(デンソー)、山崎光一氏・藤原大悟氏・市原好将氏(三菱重工業)
 - ・ 奨励賞：2 件 中島真央氏(静岡大学)、前田佳弘氏(名古屋工業大学)

- ・ 学業優秀賞：15 件（詳細略）

5. 4 北陸支部

2009 年度(平成 21 年度)北陸支部事業の概要

北陸地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動为目标に、以下の事業を展開した(12 月 7 日以降の行事は実施予定)。

1. 研究活動の場と情報の提供
特別講演会、学術講演会、講演会（地区主催）などを実施もしくは実施予定である。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。
2. 会員増加への取り組み
講演会の開催において、学生が興味を抱くテーマ選択、参加への積極的な呼びかけ、十分な質疑応答時間の設定を行い、SICE の魅力を伝える場を提供した。また、学生奨励制度の検討を行い、次年度より実行する予定である。
3. 支部運営および事業企画・検討
総会、評議員会、役員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。特に、地域企業との協働を重要課題と捉え、次年度より「産学交流学術会議」を開催する事を計画した。

主な事業内容は次の通り。

1. 特別講演会 1 回
 - 1) 1 月 15 日(木) 「私のこれまでのメカトロニクス感について」
場所：金沢都ホテル 講師：金沢大学 神谷 好承氏 参加者：15 名
2. 学術講演会 2 回
 - 1) 1)3 月 7 日(土) 日本機械学会北陸信越支部 第 46 期総会・講演会
場所：富山大学
主催：日本機械学会北陸信越支部、共催：計測自動制御学会北陸支部
 - 2) 9 月 12 日(土)、13 日(日) 平成 21 年度電気関係学会北陸支部連合大会
場所：北陸先端科学技術大学院大学
主催：計測自動制御学会北陸支部、他 9 学会
3. 支部講演会 4 回
 - 1) 10 月 8 日(木) 「Information Processing in Sensor-Actuator-Networks」
場所：金沢工業大学 14 号館 229 教室 講師：University of Karlsruhe, Uwe D. Hanebeck 氏 参加者：27 名
 - 2) 10 月 8 日(木) 「社会を支える機器システムの制御技術開発について」
場所：金沢工業大学 5 号館 101 教室 講師：ウルム大学名誉教授 エバハート・P・ホーフ氏 参加者：249 名
 - 3) 11 月 4 日(水) 「N700 系新幹線車両の概要 ～遺伝的アルゴリズムを用いた先頭車両形状設計～」
場所：福井工業大学 多目的会議室(FUT タワー15 階) 講師：東海旅客鉄道株式会社 伊藤一氏 参加者：24 名
 - 4) 12 月 4 日(金) 「機能性材料とそのメカトロ応用」
場所：富山県立大学 L205 講義室 講師：三光合成 亀田隆夫氏、ER テック 井上昭夫氏 参加者：21 名
4. チュートリアル講演会 1 回
 - 1) 11 月 26 日(木) 「植物と生体電位」
場所：金沢星稜大学 711 講義室 講師：富山県立大学 中村清実氏、金沢星稜大学 大藪多可志氏、金沢大学 南保英孝氏、富山大学 広林茂樹氏、埼玉大学名誉教授 勝部昭明氏、埼玉大学 長谷川有貴氏 参加者：23 名
5. 協賛講演会 3 件(6 月 25 日、12 月 8 日、12 月 12 日)
6. 支部総会 1 月 15 日(木)
7. 支部幹事会 5 回(1 月 15 日、5 月 11 日、7 月 10 日、9 月 12 日、12 月 17 日)
8. 支部賞
H21 電気関係学会北陸支部連合大会計測自動制御学会北陸支部優秀論文発表賞：

小林弘和氏(金沢工業大学)
発表学会：H21 年度電気関係学会北陸支部連合大会

5. 5 関西支部

2009 年度(平成 21 年度)関西支部事業の概要

関西支部における 2009 年度の主な事業活動として、シンポジウム、特別講演会、講習会、見学会、チュートリアル講演会を開催した。シンポジウムは学生や企業の若手研究者にスポットを当てた若手研究発表会という形で継続して開催した。チュートリアル講演会は研究開発ツールである MATLAB セミナーを学生向けに開催した。また、「プロセス制御のオープンシステム化」研究会を設置し、活動を開始した。さらに、支部長賞の審査を行い、3 組の受賞者を決定した。これらの事業を通して、学生を中心とした若手研究者の啓発に重点を置くとともに、産官学の連携および事業の拡大へつなげる活動としている。

事業内容の詳細は次の通りである。

- 1) シンポジウム 1 回
1 月 14 日(水) 「若手研究発表会」
場所：常翔学園大阪センター
特別講演「道路交通分野におけるシステム情報技術」 三菱電機 西馬功泰氏
一般講演 48 件、参加者 73 名(学生 51 名、一般 22 名)
- 2) 特別講演会 1 回
1 月 28 日(水)
「素材と機械の複合メーカにおける技術開発戦略 ―ものづくりとエネルギー・環境関連技術を中心として―」 神戸製鋼所 川田 豊氏
場所：中央電気倶楽部
「国際熱核融合実験炉 ITER と先端超伝導技術」 日本原子力研究開発機構 奥野 清氏
参加者 56 名
- 3) 支部総会 1 回
1 月 28 日(水)
場所：中央電気倶楽部
- 4) 講習会 1 回
6 月 10 日(水)
場所：立命館大学大阪オフィス
「モデルベース開発の現状と課題 ―人と機械の協調をめざして―」
 - (1) 設計と生産をつなぐ MBD 電気通信大学 新 誠一氏
 - (2) 自動車の MBD 事例 日産自動車 酒井洋一氏
 - (3) SysML によるシステムのモデル化 日本 IBM 石川 浩氏
 - (4) 身体運動の解析、支援におけるモデルベース・アプローチ 名古屋大学 大日方五郎氏参加者 30 名(一般(会員) 15 名、非会員 2 名、学生 13 名)、テキスト購入 3 部
- 5) ICCAS-SICE2009 ポスターセッション 1 回
8 月 18 日(火)
場所：福岡国際会議場
- 6) 見学会 1 回
10 月 2 日(金)～3 日(土)
「日々の暮らしを支えるオートメーション技術の最前線」
場所：10 月 2 日(金) 大塚製薬板野工場、四国化工機阿南工場
場所：10 月 3 日(土) 四国電力橘石炭火力発電所、阿波おどり会館
参加者 33 名
- 7) チュートリアル講演会 1 回
12 月 2 日(水)
「学生限定 MATLAB/Simulink 講習会」
場所：京都大学本部構内
参加者 29 名
- 8) 支部長賞 (平成 22 年 1 月 28 日(木)開催の支部総会にて表彰の予定)
技術賞 1 件(申請 6 件)、奨励賞 2 件(申請 17 件)を選定。
 - i) 技術賞：「熱延ランアウトテーブル冷却帯内での新温度計測・制御技術の開発」

- 住友金属工業(株) 本田達朗(代表者)
- ii) 奨励賞：「横方向への移動を特徴とする円形断面クローラロボットの開発」
大阪大学 多田隈建二郎
奨励賞：「非ホロノミック移動ロボットの画像に基づくロバストな任意曲線追従制御」
神戸大学 倉鋪圭太
- 9) 研究会 1件
「プロセス制御のオープンシステム化」研究会を設置
- 10) 支部幹事会 6回
- 11) 拡大幹事会 1回 1月28日(水)
- 12) 関西支部・部門協議会合同会議(キャンパスプラザ京都) 1回 10月21日(水)
- 13) 特別幹事会 1回 12月21日(月)
- 14) 委員会
- i) 講習会委員会 4回
 - ii) シンポジウム委員会 6回
 - iii) 見学会委員会 4回
 - iv) チュートリアル委員会 1回
 - v) 決算委員会 1回
 - vi) 支部長賞選考委員会 1回

5. 6 中国支部

2009年度(平成21年度)中国支部事業の概要

中国地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目標に、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会、研究会、学術講演会、講演会(支部主催)などを実施した。また、E-mail や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取組み

学生(会員、非会員とも)の学術講演会への参加費を無料とした。これにより、学生の積極的な学術講演会への参加を促し、情報提供や交流を深めることを行った。

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会、役員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

主な事業内容は次の通り。

1. 特別講演会 1回
 - 1) 1月19日(月) 「状態予測制御—その概要から PID 型への変換まで」
場所：広島大学工学部第116講義室 講師：松江高専校長 荒木光彦氏
2. 学術講演会 1回
 - 1) 11月28日(土)、29日(日) 場所：鳥取大学工学部 発表件数：124件
3. 講演会 10回
 - 1) 3月6日(金)「Research on Control Systems with Hysteresis」
場所：岡山大学工学部第3講義室 講師：Concordia University Chun-Yi Su 氏
 - 2) 7月13日(月)「EEG based vigilance estimation and emotion classification」
場所：岡山大学工学部第3講義室 講師：上海交通大学 Bao-Liang Lu 氏
 - 3) 7月24日(金)「The use of neuroimaging techniques in the study of human brain functions and diseases such as AD」
場所：岡山大学工学部第3講義室 講師：Banner Alzheimer's Institute Kewei Chen 氏
 - 4) 9月1日(火)「マイクロミラーアレイを用いた鏡映像の実像を結像する光学素子」
場所：岡山大学工学部第3講義室 講師：ユニバーサルメディア研究センター 前田聡氏
 - 5) 9月7日(月) チュートリアル講演会「機械システムに対する制御系設計法とその応用」
場所：広島大学中央図書館1階ライブラリーホール 講師：広島大学 増淵泉氏・和田信敬氏・佐伯正美氏、名古屋大学 早川義一氏、横浜国立大学 藤本博志氏
 - 6) 9月14日(月)「中国における計測制御技術の現状と将来」
場所：岡山大学工学部第1講義室 講師：東北大学 柴天佑氏

- 7) 11 月 10 日(火)「システムの同次性を活かした計測と制御」
場所：山口大学工学部電気電子工学科セミナー室
講師：奈良先端科学技術大学院大学 中村文一氏
 - 8) 11 月 12 日(木)「Recent Development on Intelligent Transportation Systems in Taiwan」
場所：岡山大学工学部第 1 講義室 講師：台北科技大学 T. T. Lee 氏
 - 9) 12 月 4 日(金)「ヒト静止立位の制御メカニズム：柔軟性・安定性・ロバストネス」
場所：岡山県立大学情報工学部棟 2511 室 講師：大阪大学 野村泰伸氏
 - 10) 12 月 9 日(水)「創発型歩行ロボット」
場所：岡山県立大学情報工学部棟 2511 室 講師：理化学研究所 木村英紀氏
4. 研究会 11 件
- 1) 岡山地区計測制御研究会, 代表 鄧 明聡氏(岡山大学)
 - 2) 人間・情報・システム研究会, 代表 村田厚生氏(岡山大学)
 - 3) インテリジェント制御研究会, 代表 忻 欣氏(岡山県立大学)
 - 4) 津山地区計測自動制御研究会, 代表 井上浩行氏(津山工業高等専門学校)
 - 5) 機械システム制御研究会, 代表 佐伯正美氏(広島大学)
 - 6) プロセス制御研究会, 代表 山本 透氏(広島大学)
 - 7) AV 環境における計測制御研究会, 代表 生田 顕氏(県立広島大学)
 - 8) 瀬野川地区グループ研究会, 代表 宗像経博氏(広島国際学院大学)
 - 9) 福山地区グループ研究会, 代表 清水 光氏(福山大学)
 - 10) 医療福祉用計測制御技術研究会, 代表 田中幹也氏(山口大学)
 - 11) 松江地区計測自動制御研究会, 代表 都築卓有規氏(島根大学)
5. 支部総会 1 月 19 日(月) 場所：広島大学工学部第 116 講義室
6. 支部役員会 3 回
7. 支部拡大幹事会 1 回
8. 協賛事業 5 件(講演会 4 件, 見学会 1 件)
9. 中国支部賞
奨励賞：石田大祐氏(広島大学), 杉谷洋佑氏(広島大学), 田中 豪氏(山口大学), 毛利智生氏(山口大学), 松村雄志氏(米子工業高等専門学校)

5. 7 四国支部

2009 年度(平成 21 年度)四国支部事業の概要

四国地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者, 技術者, 学生を主な対象として, 地域の会員などにとって魅力ある活動を目標に, 以下の事業を展開した.

(1) 研究活動の場と情報の提供

今年度が第 1 回目となる支部主催の学術講演会, またこれと併催でチュートリアル 세미나を実施. さらに, 研究会, 電気関係学会四国支部連合大会などを実施. また, 総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った.

(2) 会員増加への取り組み

学術講演会と同時に若手の会(交流会)を企画した. 発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし, 学生に気楽に参加してもらうことで, SICE の魅力を学生に伝える場を提供している.

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会, 役員会, 委員会を開催し, 支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに, これまでの活動内容の検討などを行った.

主な事業内容は次の通り.

1. 学術講演会 2 回
 - 1) 11 月 7 日(土) 「2009 年度計測自動制御学会四国支部学術講演会」
場所：高知工科大学 参加者：約 100 名
—招待講演：「ネットワークロボティクスとシステム制御」慶應義塾大学 滑川 徹氏
「制御系における Implicit Control Law について」大阪大学大学院 大須賀公一氏
—一般発表件数：47 件
 - 2) 9 月 26 日(土) 「平成 21 年度電気関係学会四国支部連合大会」
場所：愛媛大学 参加者：568 名

ー特別講演：「司馬遼太郎さんと『坂の上の雲』」坂の上の雲ミュージアム館長 松原正毅氏
ー一般発表件数： 359 件

2. チュートリアルセミナー 1 回

- 1) 11 月 6 日(金) 支部学術講演会と併催 場所：高知工科大学 参加者：約 55 名
「離散値入力制御のための動的量子化器の最適設計」京都大学大学院 杉江俊治氏
「ビジュアルフィードバックと協調制御」東京工業大学大学院 藤田政之氏
「不安定ゼロダイナミクス応用の非線形システムの相対次数構造」東京工業大学大学院
三平満司氏
「プラントモデリングにおけるシステム同定の役割」慶應義塾大学 足立修一氏

3. 講演会 9 回

- 1) 1 月 14 日(水) 場所：香川大学工学部 講師：Byung Chan Min 氏(Hanbat University)
「Ergonomics Research in Hanbat University」
- 2) 11 月 20 日(金) 場所：香川大学工学部 講師：日本自動車研究所 安部原也氏
「先行車追従方略にもとづく追突警報タイミングと警報への煩わしさに関する考察」

他 7 件開催

4. 研究会 2 件

5. 支部総会 1 月 10 日(土)

6. 支部役員会 2 回

7. 支部特別幹事会 9 回

8. 後援事業 1 件

9. 四国支部賞

1) 学術講演会優秀講演賞：

佐野明幸氏(高知工科大学大学院), 河邊 悟氏(愛媛大学大学院), 下 正治氏(高知工科大学大学院), 鈴木浩司氏(徳島大学大学院), 川上耕平氏(愛媛大学大学院), 平岡祥史氏(香川大学)

2) 奨励賞：

柏尾知明氏(日亜化学工業株式会社)

5. 8 九州支部

2009 年度(平成 21 年度)九州支部事業の概要

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会、研究会、SICE 九州フォーラム、講義会、学術講演会、講演会などを実施もしくは実施予定。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 学生会員と賛助会員増加への取組み

学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICE の魅力を学生に伝える場を提供した。九州・沖縄地区企業技術者に対して本学会の魅力を高める事業を SICE 九州フォーラムなどの支部事業により提供した。これらの事業への企業技術者への参加を促した。

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたり、これまでの活動内容の検討や改革、新企画の発案などを行った。

平成 21 年度九州支部事業実施回数

1) 支部総会	1 回
2) SICE 九州フォーラム	1 回
3) 講義会	1 回
4) 特別講演会	1 回
5) 学術講演会	1 回
6) 学生発表交流会	1 回
7) 講演会	9 回
8) 見学会	1 回
9) 役員会	3 回
10) 評議員会	1 回
11) 事業委員会	2 回

12) 支部奨励賞表彰：(支部総会時 平成 22 年 1 月 9 日 に表彰予定)

【計測部門】

中島佑樹君(九州工業大学)

論文題目「HOG 特徴量と人モデルを用いた人物および身体の向きを検出」

【制御理論部門】

花咲 旭君(九州工業大学)

論文題目「1-out-of-m Integrity 問題におけるランク制約された状態フィードバックゲインについて」

Ⅱ 事 業

(1) 会誌「計測と制御」(Vol.48, No.1～No.12)を毎月発行

- 1月号 特集・高次機能の学習と創発—脳・ロボット・人間研究における新たな展開—
 - 2月号 特集・ハイテク食料生産におけるイノベーション
 - 3月号 特集・産業界を支える流体計測制御技術
 - 4月号 特集・フレッシュマンのための計量トレーサビリティ入門
 - 5月号 ミニ特集・サービスの視覚化に関する新潮流
 - 6月号 特集・モーション・メディアとインフォマティクス・モーション
 - 7月号 ミニ特集・計測と制御のための無線通信技術
 - 8月号 特集・適応・学習制御の新しい潮流
 - 9月号 特集・身体・脳・環境の相互作用による適応的ロコモーション機能
 - 10月号 特集・人をまもる電波センシング技術
 - 11月号 ミニ特集・安心・安全システム構築のための形式検証技術
 - 12月号 特集・空間知—私たちの生活を支える脳・身体 of 拡張空間の創出—
- 総頁数 924 頁

(2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.45, No.1～12)を毎月発行

- 総頁数 750 頁
掲載論文 88 件, ショート・ペーパー9 件, 開発・技術ノート 0 件, 討論 0 件
投稿論文数 208 件, ショート・ペーパー21 件, 開発・技術ノート 0 件, 討論 0 件
購読数 1,750 部
特集号「SSI2008 特集—イノベーション創出のためのシステム・情報技術—」「次世代ヒューマン—マシン・システムインテグレーション」を発行した。

(3) 産業論文

- 産業論文累計 95 編, ショート・ペーパー累計 1 件, 開発・技ノート累計 13 件を Web 上で公開
特集号「プロセス制御応用」を発行した。

(4) 英文論文「SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration」 (Vol.2, No.1～6)を毎月発行

- 総頁数 418 頁
掲載論文 53 件, 招待論文 2 件
投稿論文数 95 件
購読数 400 部
特集号「Integration of Intelligent Technologies in our Daily Life」を発行した。

(5) 講 演 会

1. 主 催

- (1) ICCAS-SICE 2009 (09.8.18-21・福岡)
採択論文数 32 カ国 1246 編(うち海外 564 編, オーガナイズドセッション 518 編, 一般セッション 705 編, 産業論文 23 編), 参加者 29 カ国 1,362 名(うち海外 431 名)
- (2) SICE Week 2009「講演会」 (09.8.17・福岡・31 名)
- (3) SICE Week 2009「ランチョンセミナー」 (09.8.19・福岡・70 名)
- (4) SICE Week 2009「夏休みロボット工作教室」 (09.8.21・福岡・27 名)

2. 共 催

- (1) 2009 年(平成 21 年)春季第 56 回応用物理学関係連合講演会 (09.3.30-4.2・筑波)
- (2) 第 46 回アイソトープ・放射線研究発表会 (09.7.1-3・東京)
- (3) 安全工学シンポジウム 2009 (09.7.9-10・東京)
- (4) シンポジウム「日本のもの作りを医療へ生かす」 (09.11.21・東京)
- (5) 第 52 回自動制御連合講演会 (09.11.21-22・豊中)
- (6) 平成 21 年度工学教育連合講演会 (09.11.28・東京)

(6) 部門大会／部門学術講演会

- (1) 第9回制御部門大会 (09.3.4-6・広島・281名)
- (2) 第26回センシングフォーラム (09.9.28-29・東京・127名)
- (3) 産業応用部門2010年度大会 (09.11.5-6・東京・168名)
- (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2009) (09.11.24-26・横浜・200名)
- (5) 第10回システムインテグレーション部門講演会(SI2009) (09.12.24-26・東京・1,061名)

(7) 支部関係／支部学術講演会

- (1) 北海道支部
学術講演会1回，特別講演会1回，講演会4回，協賛行事2回，チュートリアル講演会1回
- (2) 東北支部
学術講演会1回，研究集会4回，特別講演会1回，講演会1回，協賛行事5回，チュートリアル講演会1回
- (3) 中部支部
特別講演会1回，シンポジウム1回，学術講演会2回，記念事業・チュートリアル1回，研究会20回，協賛行事24回
- (4) 北陸支部
特別講演会1回，学術講演会2回，講演会4回，チュートリアル講演会1回，協賛行事3回
- (5) 関西支部
特別講演会1回，見学会1回，研究会1回，講習会1回，シンポジウム1回，チュートリアル講演会1回，ポスターセッション1回
- (6) 中国支部
学術講演会1回，特別講演会1回，講演会10回，研究会11回，協賛行事5回
- (7) 四国支部
学術講演会2回，講演会9回，研究会2回，チュートリアルセミナー1回，後援事業1回
- (8) 九州支部
フォーラム1回，学術講演会1回，特別講演会1回，講演会9回，見学会1回，講議会1回，学生発表交流会1回

(8) 講習会

- (1) SICE セミナー「実践的な制御系設計」 (09.1.15-16・大阪・33名)
- (2) 第9回制御部門ワークショップ (09.3.6・広島・58名)
- (3) SensorExpo2009SICE 計測部門セミナー (09.4.9・東京・29名)
- (4) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (09.5.11-12・大阪・29名)
- (5) SICE セミナー「制御のためのシステム同定」 (09.5.13-14・東京・43名)
- (6) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (09.9.15-16・東京・38名)
- (7) SICE セミナー「実践的な制御系設計」 (09.12.3-4・東京・54名)

(9) シンポジウム

- (1) 第21回自律分散システム・シンポジウム (09.1.22-23・鳥取・101名)
- (2) 第9回適応学習制御シンポジウム (09.1.26-27・東京・28名)
- (3) 第36回知能システムシンポジウム (09.3.17-18・京都・138名)
- (4) 第26回誘導制御シンポジウム (09.5.14-15・神奈川・45名)
- (5) 第15回創発システムシンポジウム (09.8.8-10・富山・72名)
- (6) 第38回制御理論シンポジウム (09.9.14-16・大阪・151名)
- (7) 第24回生体・生理工学シンポジウム (09.9.24-26・仙台・241名)
- (8) 計装技術交流部会・産業システムシンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (9) 第10回流体計測制御シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (10) 計測・制御ネットワーク部会シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (11) 第35回リモートセンシングシンポジウム (09.11.5-6・東京・44名)
- (12) 第14回パターン計測シンポジウム (09.11.20-21・岡山・12名)

(10) 部門活動

1. 計測部門 委 3 回 部門大会 1 回
 - (1) センシングフォーラム委員会 委 3 回
 - (2) 温度計測部会 委 3 回, 部会企画行事 4 回, セミナー1 回
 - (3) 力学量計測部会 委 2 回, 部会企画行事 4 回, 共催行事 2 回
 - (4) リモートセンシング部会 委 5 回, 部会企画行事 4 回, 共催行事 1 回
 - (5) パターン計測部会 委 3 回, 部会企画行事 4 回, 共催行事 2 回
 - (6) センシングフォトニクス部会 委 1 回
 - (7) 先端電子計測部会 委 2 回, 部会企画行事 3 回
 - (8) ネットワークセンシングシステム部会 部会企画行事 2 回, セミナー1 回
 - (9) アンビエントセンシングヒュージョン調査研究会 委 1 回, 部会企画行事 3 回
2. 制御部門 委 4 回 部門大会 1 回 セミナー6 回
 - (10) 制御技術部会 委 3 回, 部会企画行事 1 回
 - (11) 制御理論部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回
 - (12) プラントモデリング部会 委 3 回 部会企画行事 1 回, 共催行事 3 回
 - (13) エンジン・パワートレイン先端制御理論調査研究会 委 4 回, 研究会企画行事 8 回
 - (14) フォーマーション制御調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 4 回
 - (15) 多分解能マルチスケールシステム調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 4 回
 - (16) 生物制御システム調査研究会 研究会企画行事 4 回
 - (17) 組込み制御システムのモデルベース開発調査研究会 研究会企画行事 1 回
 - (18) 実践的適応学習制御調査研究会 研究会企画行事 8 回
 - (19) 先端航法誘導技術調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 5 回
 - (20) ディペンダブル制御系調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
 - (21) 次世代制御技術調査研究会 委 3 回 部会企画行事 4 回
3. システム・情報部門 委 4 回 部門大会 1 回, 共催行事 2 回, 協賛行事 3 回
 - (22) システム工学部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (23) マンマシンシステム部会 部会企画行事 5 回
 - (24) 知能工学部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
 - (25) 生体・生理工学部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (26) 自律分散システム部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回
 - (27) ニューラルネットワーク部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
 - (28) 離散事象システム部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
 - (29) 移動知調査研究会 研究会企画行事 1 回
 - (30) イノベティブコンピューティングに関する調査研究会 研究会企画行事 1 回
 - (31) 組込み制御システムのモデルベース・エンジニアリング手法調査研究会
4. システムインテグレーション部門 委 6 回, 部門大会 1 回, 国際会議 1 回
 - (32) メカトロニクスシステム部会
 - (33) 自動化システム部会 委 3 回, 部会企画行事 2 回
 - (34) ロボティクス部会
 - (35) 福祉工学部会 委 2 回, 部会企画行事 3 回
 - (36) VR 工学部会
 - (37) レスキュー工学部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回, 共催行事 4 回
 - (38) ユニバーサルデザイン部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
 - (39) 相互作用と賢さ部会 委 2 回, 部会企画行事 3 回
 - (40) 共創システム部会 委 3 回, 部会企画行事 1 回
 - (41) ロボット・セラピー部会 委 2 回, 部会企画行事 6 回, 共催行事 26 回
 - (42) 安全回復システム部会 委 5 回, 部会企画行事 4 回
 - (43) バイオシステム部会 委 3 回, 部会企画行事 1 回, 共催行事 1 回, 協賛行事 1 回
 - (44) RT システムインテグレーション部会 部会企画行事 2 回, 共催行事 5 回
 - (45) ソフトマテリアル応用部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回, 共催行事 1 回
 - (46) 医工融合システム部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回, 協賛行事 1 回
 - (47) 人工生命体システム部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回, 共催行事 3 回
 - (48) 触覚部会 委 3 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 2 回
 - (49) バイオミメティックマシン部会

- (50) モーションメディア部会 委 3 回, 部会企画行事 4 回
- (51) 空間知部会 委 1 回, 部会企画行事 5 回
- (52) 環境とロボットとのインタラクションデザイン調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 2 回
- (53) インテリジェントビークル調査研究会 委 3 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
- (54) 大規模システム安全環境構築調査研究会
- 5. 産業応用部門 委 5 回, 部門大会 1 回
 - (55) 計装技術交流部会 委 10 回, 部会企画行事 7 回
 - (56) 流体計測制御部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
 - (57) 計測・制御ネットワーク部会 委 5 回, 部会企画行事 2 回, 協賛行事 2 回
 - (58) 計測制御エンジニア会 拡大幹事会 1 回, 幹事会 1 回

(1 1) 国際会議(共催)

- (1) 第 9 回自律分散システム国際会議 (ISADS2009) (2009.3.23-25・Athens, Greece)
- (2) 2009 IEEE International Conference on Networking, Sensing and Control (09.3.26-29・岡山)
- (3) 2009 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics (AIM'09) (09.7.14-17・Singapore)
- (4) 2009 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2009) (09.10.11-15・St. Louis, U.S.A.)
- (5) The 35th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON-2009) (09.11.3-5・Porto, Portugal)
- (6) 2009 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SI International 2009) (09.11.29・東京)
- (7) 48th IEEE Conference on Decision and Control (CDC) and 28th Chinese Control Conference (CCC) (09.12.16-18・Shanghai, China)

(1 2) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズを刊行中。第 1 巻(第 9 回配本)『計測技術の基礎』初版発刊, 第 20 巻(第 10 回配本)『情報数学—現代情報技術のための基礎数学—』初版発刊。

(1 3) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- | | |
|---------------------------------|------------|
| (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売) | 累計 4,125 部 |
| (2) " (機器・応用編)(オーム社より販売) | 累計 4,060 部 |
| (3) 教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座 | 累計 665 セット |
| (4) SICE-BASE 30 | 累計 164 本 |
| (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売) | 累計 370 部 |

III 学 会 賞 2009 年度計測自動制御学会賞(敬称略)

(1) 功 績 賞

該当なし

(2) 論 文 賞 9 編 29 名

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 論文賞・蓮沼賞 | : 山崎弘郎, 本多 敏, 上田雅司, 笛木 学 |
| 論文賞 | : 田中信行, 東森 充, 金子 真 |
| 論文賞・武田賞 | : 児島 晃, 市川洋資 |
| 論文賞 | : 五十嵐裕司, 畑中健志, 藤田政之 |
| 論文賞 | : 新銀秀徳, 太田快人 |
| 論文賞 | : 椿野大輔, 藤本健治 |
| 論文賞・友田賞 | : 田口 峻, 稲垣伸吉, 鈴木達也, 早川聡一郎, 津田太司, 渡辺 篤 |
| 論文賞 | : Tomohiko Jimbo, Yoshikazu Hayakawa |
| 論文賞 | : 中村彰利, 小澤隆太, 後藤 智, 畠中泰彦, 川村貞夫 |

(3) 技 術 賞 3 編 17 名

- 技術賞 : 羽島一夫, 枝澤一寛, 松下雅仁, 三輪祥太郎, 鹿毛裕史,
Michael Jones
- 技術賞 : 奥田尚住, 石川直樹, 康 子博, 正 浩志, 片山朋彦, 中井敏夫
- 技術賞 : 葛田広幸, 平位隆史, 鷺見和彦, 伊藤 寛, 志賀 諭
- (4) 著 述 賞 2 件 3 名
- 著述賞 : 出口光一郎, 本多 敏
- 著述賞 : 制振工学ハンドブック編集委員会
- (5) 新製品開発賞 2 件
- 新製品開発賞 : 横河電機株式会社
- 新製品開発賞 : 富士電機システムズ株式会社
- (6) 教育貢献賞 1 件 11 名
- 教育貢献賞 : 北森俊行, 伊藤利昭, 小河守正, 加納 学, 重政 隆, 末続 靖,
富田芳生, 橋本芳宏, 永島 晃, 高津春雄, 大谷哲也
- (7) 学術奨励賞
- 研究奨励賞 10 名
- : 門内靖明, 山岡正明, 佐藤訓志, Cai Kai, 椿野大輔,
Saori Iseya, Masato Wakatake, 落合恭也, 市地 慶,
Akiko Takahashi
- 技術奨励賞 4 名
- : Hyon Lim, Sehoon Oh, 川口純一郎, Noboru Tsunashima,
- (8) SICE Annual Conference Award
- International Award Yoshio EBIHARA
- Young Author's Award Yutaka HORI
- (9) 国際標準化賞
- 国際標準化功績賞 1 名
- : 福田好朗
- 国際標準化奨励賞 1 名
- : 高柳洋一

IV 名誉会員 2009 年度名誉会員証贈呈

: 小畑秀文, 伊藤利昭

V フェロー 2009 年度フェロー称号贈呈 7 名(敬称略)

: 永島 晃, 和田 清, 渡部慶二, 千田有一, 森 芳立, 仲田隆一,
奥津良之

VI SICE 認定計測制御エンジニア認定試験合格者

初級計測制御エンジニア 3 名

: 劉 祖国, 日置雅明, 前野達成

計測制御エンジニア補 3 名

: 氣田和典, 及川直也, 山縣謙一

計測制御エンジニア 12 名

: 岩崎隆至, 坂口正道, 一矢竜人, 東 俊光, 今村 孝, 川北真裕,
久保健次, 川本智大, 杉本真人, 柴田浩司, 高杉晋一, 岩崎裕司

計測制御エンジニア(推薦認定) 2 名

: 川崎晴久, 早川義一

VII SICE プロセス塾修了者 43 名

: 高木健太郎, 黒田俊行, 伊藤健一, 大井章弘, 木原 健, 竹内健史,
河合富貴子, 田中春奈, 今 順二, 新木正一, 高野 剛, 松本宏治,
藤澤昭博, 阿部 明, 木村安伸, 漆間岳郎, 大北和弘, 中元康之,
加瀬修司, 石建 信, 大館誠司, 柳井 裕, 村上正樹, 風見貴雄,
立川公一, 井出雅弘, 田代 敦, 篠原充裕, 佐藤貴仁, 平岡富士雄,

箕輪新二, 香月 毅, 菊地雄一, 山上 隆, 石渡 進, 寺崎文男,
田邊英之, 黒住郁磨, 岸 真人, 別府明敏, 重田為和, 桑原大介,
的場祐樹

VIII 部門賞・支部賞(敬称略)

1. 計測部門

計測部門論文賞 : 成田大助, 馬場 充, 蔦田広幸, 平位隆史, 鷺見和彦, 伊藤 寛,
志賀 諭
研究奨励賞 : 西野敦洋, 栗原 徹, 梶川宏明, 小山翔一, 牧野泰才

2. 制御部門

パイオニア賞 : 石川将人
パイオニア技術賞 : 加納 学
部門大会賞 : 萩原朋道, 大塚敏之
研究奨励賞 : 鈴木雅康, 朴 翔一, 清水 光, 廣瀬尚人, 佐藤訓志

3. システム・情報部門

優秀論文賞 : 染谷博司
奨励賞 : 巻口誉宗, 植村 渉, 稲垣伸吉

4. システムインテグレーション部門

研究業績賞 (1 件) : 出口光一郎
技術業績賞 (1 件) : 福島 E 文彦
功績賞 (1 件) : 油田信一
研究奨励賞 (2 件) : 田中由浩, 村井昭彦
若手奨励賞 (5 件) : 東森 充, 村崎和彦, 打田正樹, 高嶋 淳, 森上雄太
貢献表彰 (3 件) : 佐々木実, 森田良文, 田中孝之
ロボカップレスキューロボトリグ計測自動制御学会賞
: BART LAB RESCUE チーム(Bahia State Univ.)
レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞(レスキュー工学大賞)
: レスコン工房 (名古屋工業大学ロボコン工房)
ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞
: Ri-one チーム(立命館大学)
計測自動制御学会 RT ミドルウェア賞
: 佐々木毅, 橋本秀紀

5. 産業応用部門

功績賞 : 該当なし
奨励賞 : Yasuaki Monnai, Chi Nan Pai, 一柳隆義
技術賞 : 藤井憲三, 山本 透

6. 北海道支部

(なし)

7. 東北支部

優秀発表奨励賞 : 繁田 脩(東北大学), 一井宏次(八戸工業高等専門学校), 安田優也(八戸工業高等専門学校), 村越政之(東北大学), 高村周平(秋田大学), 市地慶(東北大学), 八巻俊輔(東北大学), 植野博之(山形大学), 大江寛次郎(山形大学), 儀保耕平(福島大学), 衣川昌宏(東北大学)

8. 中部支部

功労賞 : 舟橋康行(中京大学), 松村司郎(伊藤忠エネクス), 武藤高義(岐阜大学), 稲熊幸雄(大同大学), 細江繁之(理化学研究所), 都築良彦(ブラザー工業), 藤本英雄(名古屋工業大学), 土屋総二郎(デンソー)
研究賞 : 山元純文(名古屋工業大学), 河村庄造(豊橋技術科学大学)
技術賞 : 高羽直樹・竹田修二・室崎 隆(デンソー), 山崎光一・藤原大悟・市原好将(三菱重工業)
奨励賞 : 中島真央(静岡大学), 前田佳弘(名古屋工業大学)
学業優秀賞 : 15 件(詳細略)

9. 北陸支部

- 優秀論文発表賞 : 小林弘和(金沢工業大学)
10. 関西支部
- 技術賞 : 住友金属工業(株) 本田達朗(代表者)
- 奨励賞 : 多田隈建二郎(大阪大学)
- 奨励賞 : 倉鋪圭太(神戸大学)
11. 中国支部
- 奨励賞 : 石田大祐(広島大学), 杉谷洋佑(広島大学), 田中 豪(山口大学), 毛利智生(山口大学), 松村雄志(米子工業高等専門学校)
12. 四国支部
- 優秀講演賞 : 佐野明幸(高知工科大学), 河邊 悟(愛媛大学), 下 正治(高知工科大学), 鈴木浩司(徳島大学), 川上耕平(愛媛大学), 平岡祥史(香川大学)
- 奨励賞 : 柏尾知明(日亜化学工業株式会社)
13. 九州支部
- 奨励賞 : 中島佑樹(九州工業大学), 花咲 旭(九州工業大学)

IX 会 議

1. 総 会 第 48 回定時総会 (09.2.27・筑波大学 G501 教室)
- 臨時総会 (09.8.20・福岡サンパレス)
2. 理事会 5 回, 拡大 1 回, 常務理事会 3 回
3. 役員・評議員懇談会 1 回
4. 支部協議会 3 回
5. 賛助会員懇談会 1 回
6. 関連団体懇談会 1 回
7. 各種委員会
 - 企画委員会 (2 回)
 - 会員・広報委員会 (3 回)
 - 学会賞委員会 (4 回)
 - フェロー選考委員会 (1 回)
 - 部門協議会 (7 回, 部門連携・活性化専門委・5 回, 打合せ・1 回, ライフサイエンス技術専門委・1 回, 組込みシステム技術専門委・2 回)
 - 国際委員会 (5 回)
 - SICE Annual Conference 2008 in Chofu (実行委・1 回)
 - ICCAS-SICE2009 in Fukuoka (実行委・3 回, 打合せ・多数)
 - 50 周年記念事業準備委員会 (3 回, WG・5 回)
 - 新公益法人対応準備委員会 (14 回, 財務 WG・9 回)
 - 国際標準化委員会 (7 回, 国際標準化賞候補者推薦小委・1 回)
 - 技術史委員会 (6 回, HisCon 打合せ・5 回)
 - IMEKO 委員会 (1 回)
 - 事業推進協議会 (1 回)
 - 教育・認定委員会 (4 回, 拡大・2 回, WG・6 回)
 - プロセス塾委員会 (3 回)
 - 会誌編集委員会 (6 回, 特別 1 回)
 - 論文集委員会 (7 回)
 - 産業論文委員会 (3 回)
 - 英文論文集委員会 (3 回, 拡大・1 回)
 - 総務委員会 (6 回, 打合せ・1 回)
 - IT・学会モデル委員会 (2 回, コア会議・1 回, 打合せ・3 回)
 - 役員候補者推薦委員会 (2 回)
8. 支部関係
 - (1) 北海道支部 総会 1 回, 幹事会 1 回, 評議員会 2 回
 - (2) 東北支部 総会 1 回, 運営専門委員会 7 回, 役員・評議員・運営専門委員会 1 回
 - (3) 中部支部 総会 1 回, 幹事会 4 回, 特別幹事会 6 回
 - (4) 北陸支部 総会 1 回, 幹事会 5 回

- (5) 関西支部 総会 1 回, 幹事会 6 回, 拡大幹事会 1 回, 関西支部-部門協議会合同会議 1 回, 特別幹事会 1 回, 委員会 17 回
- (6) 中国支部 総会 1 回, 役員会 3 回, 拡大幹事会 1 回
- (7) 四国支部 総会 1 回, 役員会 2 回, 特別幹事会 9 回
- (8) 九州支部 総会 1 回, 役員会 3 回, 評議員会 1 回, 事業委員会 2 回

X その他

- 1. 国際関係
 - (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
 - (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
 - (3) ISA, CIS, IEEE, ICROS, CAA, CACS との交流
 - (4) 来日外国学識者との交流
 - (5) APFICS への協力
- 2. 国内関係
 - (1) 日本工学会など関連学協会への協力(事業協賛, 後援などを含む)
 - (2) システム制御情報学会との事業協力
 - (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合への協力
 - (4) JABEE への協力
 - (5) 日本工学会 CPD 協議会への協力